

北杜市  
移動と公共交通に関するアンケート  
(市民アンケート)  
報告書

平成 29 年 9 月

## 目 次

I. 調査の概要.....	1
II. 調査結果の概要.....	2
II-1. 世帯・個人の属性.....	4
1 世帯の属性.....	5
2 回答者属性.....	7
II-2. 日常の移動実態.....	13
1 通勤・通学移動について.....	14
2 通院移動について.....	17
3 買物移動について.....	20
4 その他の移動について.....	23
5 休日の移動について.....	26
6 家族送迎について.....	29
II-3. 公共交通の評価.....	33
1 JR 利用状況.....	34
2 路線バスの利用について.....	35
3 高速バスの利用について.....	36
III. 今後の公共交通の利用意向.....	37
1 今後の公共交通の利用意向について.....	38
IV. 今後の公共交通のあり方.....	41
1 今後の公共交通のあり方について.....	42

# I. 調査の概要

## (1) 調査の目的

北杜市の地域公共交通は、合併前の旧町村営の路線バスを引き継いだ「市民バス」が運行されているが、広大なエリアに集落が点在していること、利用者が少ないことへの対応等課題を抱えている状況である。

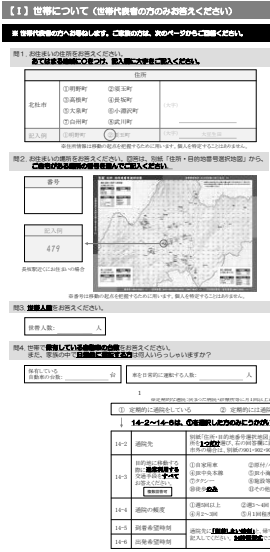
この課題解決に向け、市民の移動実態と、本市の公共交通の現状に対する市民の意向を把握するためのアンケート調査を実施した。

## (2) アンケート調査の概要

- (1) 実施主体 北杜市 企画部企画課
- (2) 調査受託 特定非営利活動法人 SCOP
- (3) 対象者 高校生以上の北杜市在住者
- (4) 調査期間 平成 29 年 6 月 23 日～7 月 9 日  
(7 月 31 日到着分までを有効票とした)
- (5) 配布数 3,000 票 (世帯) (うち、戻り票 2 票)
- (6) 回収数 1,543 票
- (7) 有効回答数 1,540 票 (有効回答率 51.4%)
- (8) 回答者数 3,416 人※

※アンケートは世帯に対して配布した。

1つのアンケート票は最大4人が回答できるようになっている。複数の世帯員から回答を得ているため、回答者数は3,416人となっている。



**【1】世帯について (世帯代表者のみお答えください)**

※世帯代表者のみお答えください。ご世帯の、おのづからご確認ください。

※1. 世帯員が複数いらっしゃるご家庭は、**1票につき最大4名まで記入してください。**


※2. 世帯員が複数いらっしゃるご家庭は、**1票につき最大4名まで記入してください。**

※3. **世帯員が複数いらっしゃるご家庭は、1票につき最大4名まで記入してください。**

※4. **世帯員が複数いらっしゃるご家庭は、1票につき最大4名まで記入してください。**

**世帯回答欄**


- ・世帯代表者が回答
- ・世帯に関する情報を把握



1,540世帯

**個人回答欄**

- ・世帯員 (最大4名) が回答
- ・個人の意識や移動実態を把握



3,416人 が回答

## (3) その他

- ・設問ごとに無回答が存在するため、回答数の総数 (N) は対象者数とは一致しない。
- ・小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が 100%にならない場合がある。

## II. 調査結果の概要

### ① 移動の目的地から見る生活圏のまとめは、「明野・須玉地区」「高根・長坂・大泉地区」「小淵沢地区」「白州地区」「武川地区」

旧町村単位の8地区で、通院・買物の目的地を見ると、「明野・須玉地区」は、韮崎市・ほくと診療所エリアへの通院、韮崎市・スーパーやまと須玉店エリアへの買物が多くなっている。「高根・長坂・大泉地区」は、甲陽病院エリアへの通院、きららシティエリアへの買物が多くなっている。「小淵沢地区」は、長野県富士見町、甲陽病院エリアへの通院、長野県富士見町・スーパーやまと小淵沢店エリアへの買物が多くなっている。「白州地区」は、白州診療所エリア・韮崎市への通院、エブリエリア・韮崎市への買物が多くなっている。「武川地区」は、白州診療所エリア・韮崎市への通院、スーパーやまと武川店エリア・韮崎市への買物が多くなっている。

生活圏ごとに、目的地へ行く移動手段を検討していくことが求められる。

### ② 市民の移動手段の多くは車、交通不便者は10代と70代以上に集中 公共交通のターゲットは高校生と通院・買物の高齢者が妥当

市民の主な移動の目的である、通勤・通学、通院、買物における交通手段を見ると、「自家用車」の回答が圧倒的に多くなっている。一方で、自分の好きなききに自家用車、原付・バイクが使えない「交通不便者」の年代別の割合は、「10代」(25.3%)が最も多く、次いで「75歳以上」(18.5%)となった。税金を使って確保すべき移動では、高齢者の「通院・買物」(81.1%)、次いで「高校等への通学」(71.1%)となっている。

サービスのターゲットとして、高校生と通院・買物をする高齢者を設定し、利便性を高めていくことが求められる。

### ③ 路線バスは一部の市民にしか利用されていない 多くの市民に利用されるよう促進するか、効率化を図るなどの対策が求められる

市内を走る路線バスを月1回以上利用している市民は全体の3.7%であり、90.1%が「まったく利用していない」と回答している。

### ④ 自家用車や家族送迎での移動が多く、転換意向はわずかである

市民の多くは自家用車で移動しており、公共交通等で移動している者は4.2%である。さらに市民の81.6%はこのような移動を「公共交通へ転換していいとは思わない」と回答している。

定期的な家族送迎も全体の一部であるがみられる。移動目的は、「高齢者の通院・買物」

が最も多くなっている。「高齢者の通院・買物」で家族送迎をされている人のうち公共交通への転換意向を持っているのは32.9%であり、これは家族送迎をしている人(12.0%)よりも高くなっている。高校生の通学にも同様の傾向がみられ、家族送迎はする人よりもされる人が転換したいと考えている傾向が見られ、このような市民は新たな公共交通の利用者となり得る。

---

## Ⅲ-1. 世帯・個人の属性

---

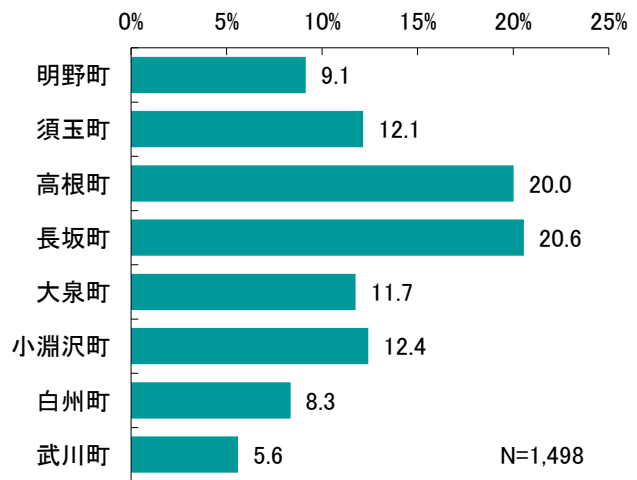
# 1 世帯の属性

回答世帯について以下に示す。

## 《1》居住地域

	回答数(世帯)	割合(%)
明野町	137	9.1
須玉町	182	12.1
高根町	300	20.0
長坂町	308	20.6
大泉町	176	11.7
小淵沢町	186	12.4
白州町	125	8.3
武川町	84	5.6
合計	1,498	100.0

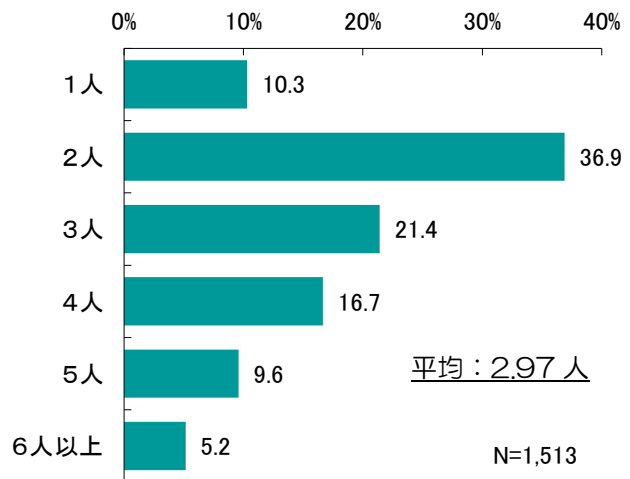
無回答=42



## 《2》世帯人数

	回答数(世帯)	割合(%)
1人	156	10.3
2人	558	36.9
3人	324	21.4
4人	252	16.7
5人	145	9.6
6人以上	78	5.2
合計	1,513	100.0

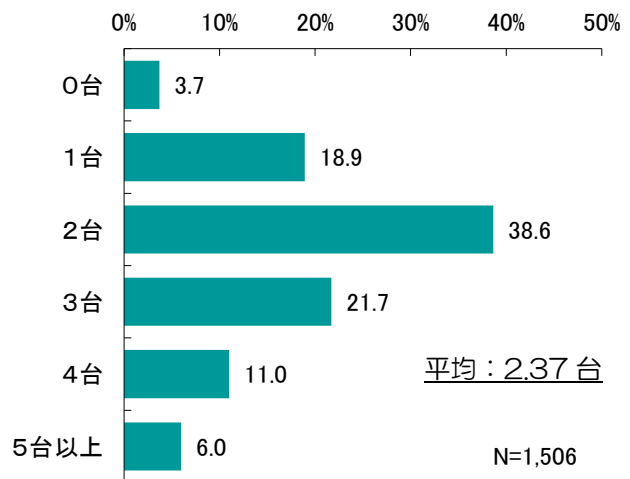
無回答=27



## 《3》保有自動車数

	回答数(世帯)	割合(%)
0台	56	3.7
1台	285	18.9
2台	582	38.6
3台	327	21.7
4台	166	11.0
5台以上	90	6.0
合計	1,506	100.0

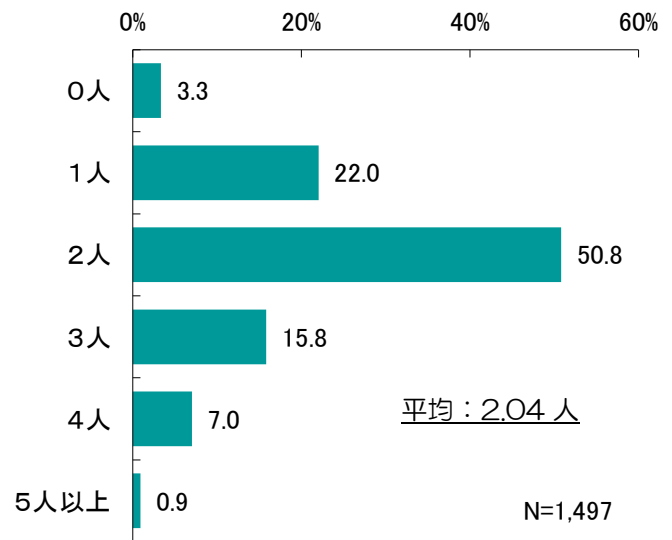
無回答=34



#### 《4》世帯における運転者数

	回答数(世帯)	割合(%)
0人	50	3.3
1人	330	22.0
2人	761	50.8
3人	237	15.8
4人	105	7.0
5人以上	14	0.9
合計	1,497	100.0

無回答=43



- ◆ 回答した世帯の世帯員数は、2人がもっとも多く、世帯員数4人までで85.3%を占めている。
- ◆ 回答した1,513世帯の平均世帯員数は2.97人である。
- ◆ 自動車の保有台数は2台がもっとも多く、1世帯あたり平均で2.37台保有している。
- ◆ 車を日常的に運転する人数は1世帯あたり2.04人である。



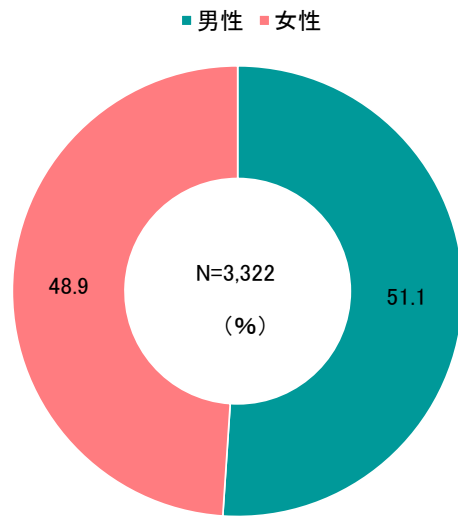
## 2 回答者属性

回答者個人の属性について以下に示す。

### 《1》性別

	回答数(人)	割合(%)
男性	1,696	51.1
女性	1,626	48.9
合計	3,322	100.0

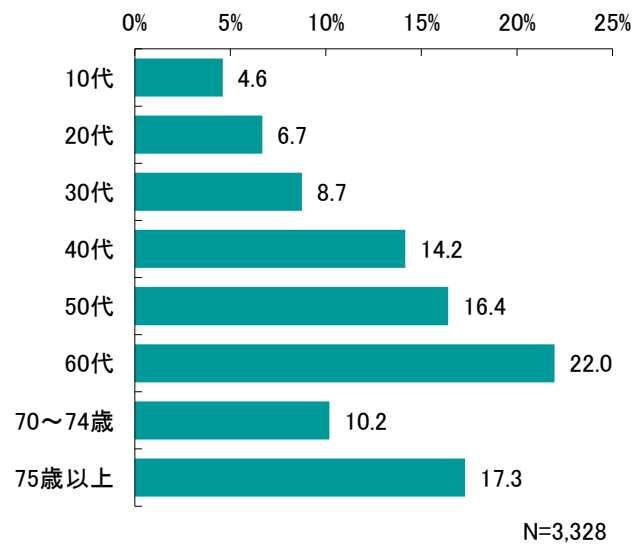
無回答=94



### 《2》年代

	回答数(人)	割合(%)
10代	153	4.6
20代	222	6.7
30代	291	8.7
40代	471	14.2
50代	546	16.4
60代	731	22.0
70~74歳	339	10.2
75歳以上	575	17.3
合計	3,328	100.0

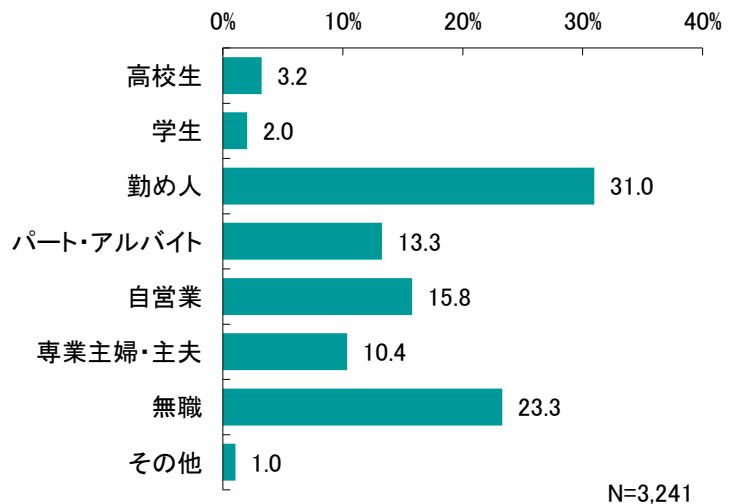
無回答=88



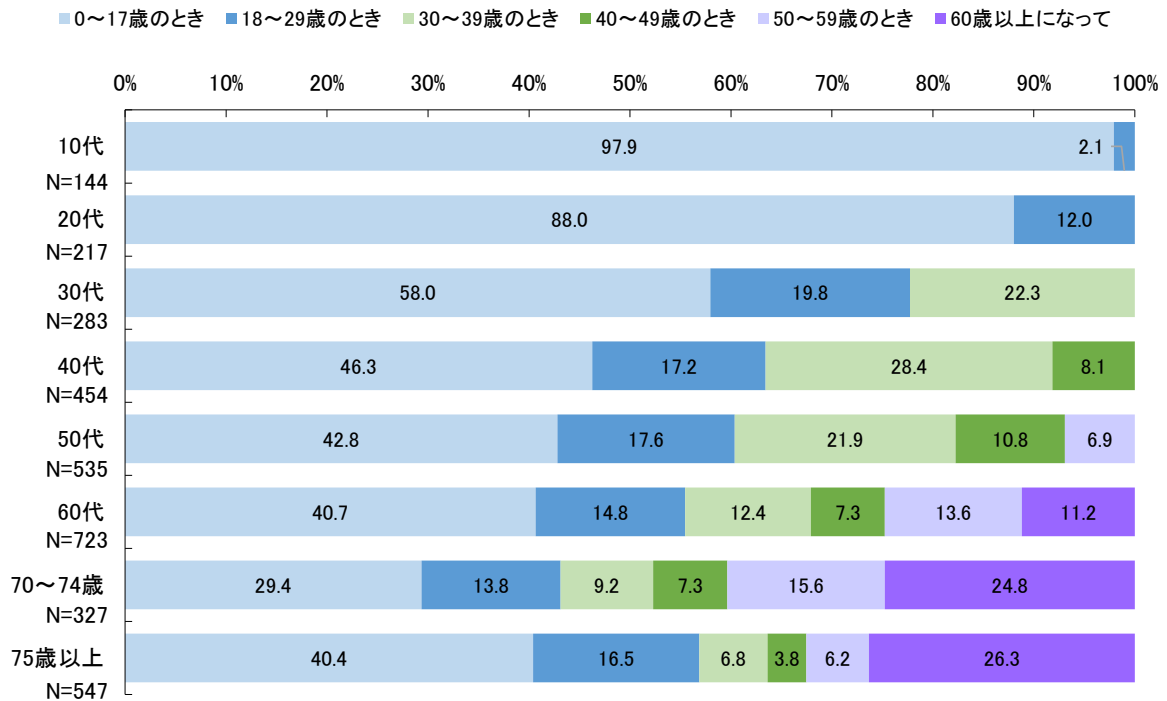
### 《3》就学・就業状況

	回答数(人)	割合(%)
高校生	105	3.2
学生	66	2.0
勤め人	1,004	31.0
パート・アルバイト	430	13.3
自営業	511	15.8
専業主婦・主夫	336	10.4
無職	755	23.3
その他	34	1.0
合計	3,241	100.0

無回答=175



#### 《4》年代別住み始めた時期

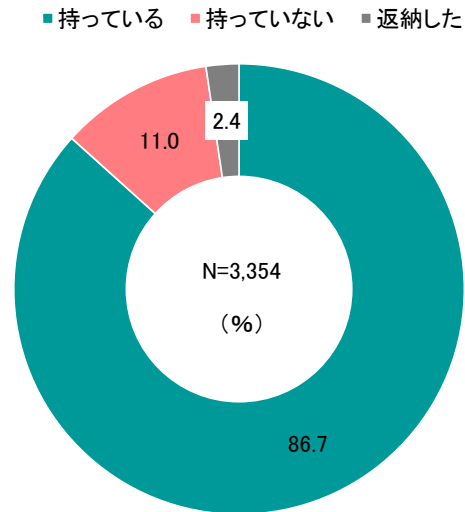


- ◆ 回答者の属性をみると、性別は、男性が 51.1%、女性が 48.9%である。
- ◆ 年代は、60代が最も多く 22.0%である。70歳以上の回答者は 27.5%であった。
- ◆ 就学・就業状況は、「勤め人」が最も多く 31.0%。次いで、「無職」が 23.3%である。
- ◆ 北杜市に住み始めた時期を年代別で見ると、すべての年代で「0~17歳のとき」の割合が最も高くなった。30~50代では「30~39歳のとき」と回答した者の割合が2番目に高くなっている。70歳以上では「60歳以上になって」と回答した者の割合が2番目に高くなっている。

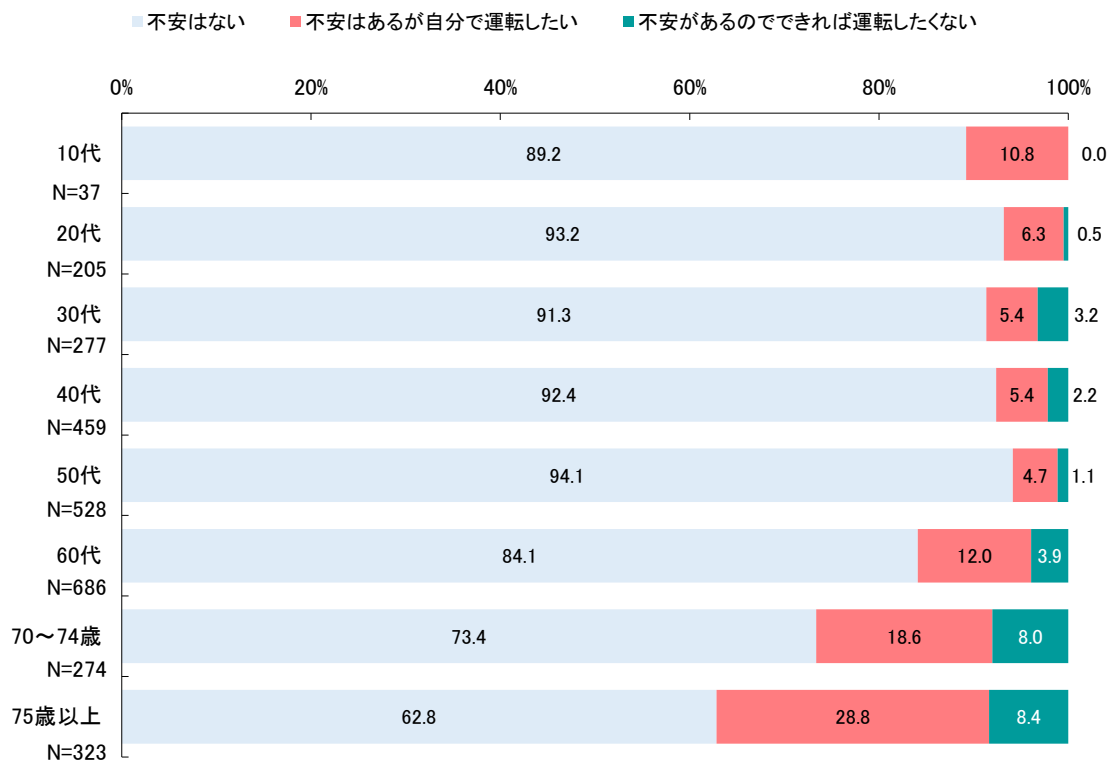
## 《5》 運転免許の有無

	回答数(人)	割合(%)
持っている	2,907	86.7
持っていない	368	11.0
返納した	79	2.4
合計	3,354	100.0

無回答=62

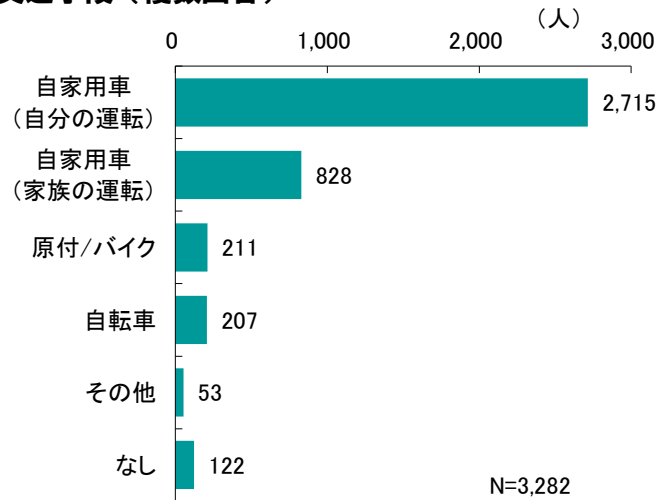


## 《6》 年代別運転への不安



- ◆ 運転免許保有者は全体の 86.7%である。
- ◆ ふだん運転している者のうち、50代までは運転に不安を感じる者は1割に満たないが、60代以上で不安を感じる者の割合が増加している。不安を感じながらも自分で運転したいと思う高齢者が多いことが分かる。

## 《7》好きな時に使える交通手段（複数回答）

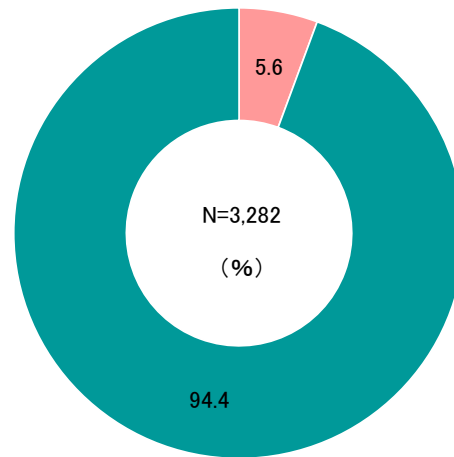


## 《8》交通不便者／非不便者※

	回答数(人)	割合(%)
交通不便者	185	5.6
非交通不便者	3,097	94.4
合計	3,282	100.0

無回答=134

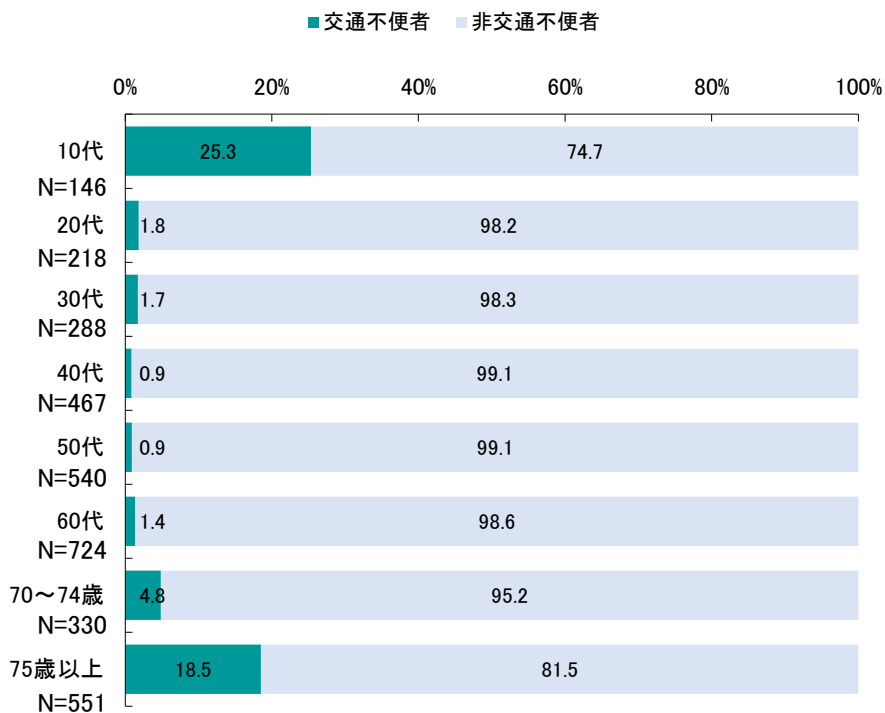
■ 交通不便者 ■ 非交通不便者



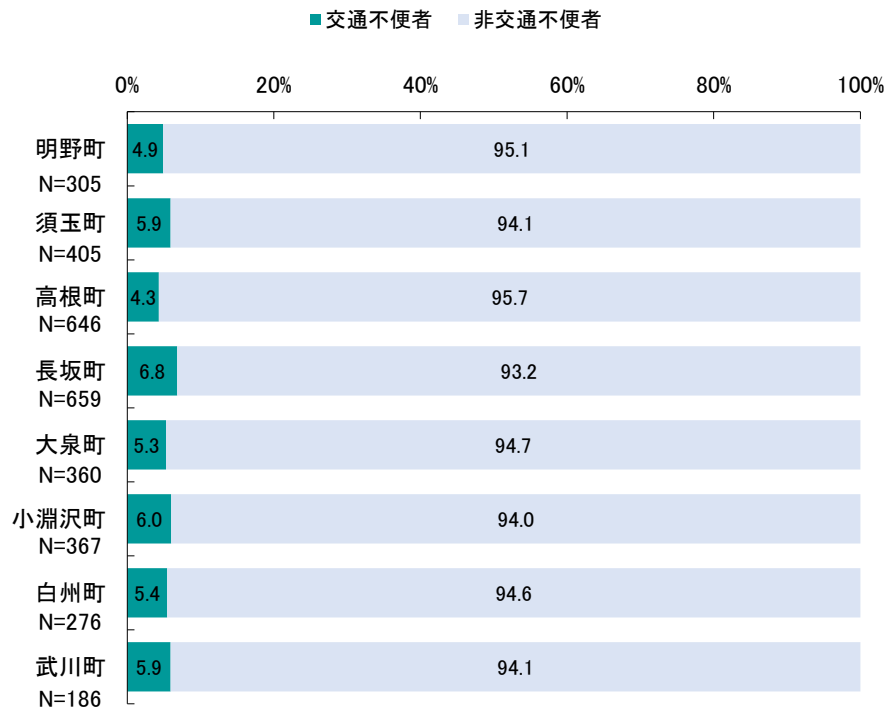
※交通不便者とは、

自分の好きな時に使える交通手段として、  
自家用車（自分の運転・家族の運転）、  
原付／バイク、いずれも選択していない者としている。

## 年代別交通不便者／非交通不便者



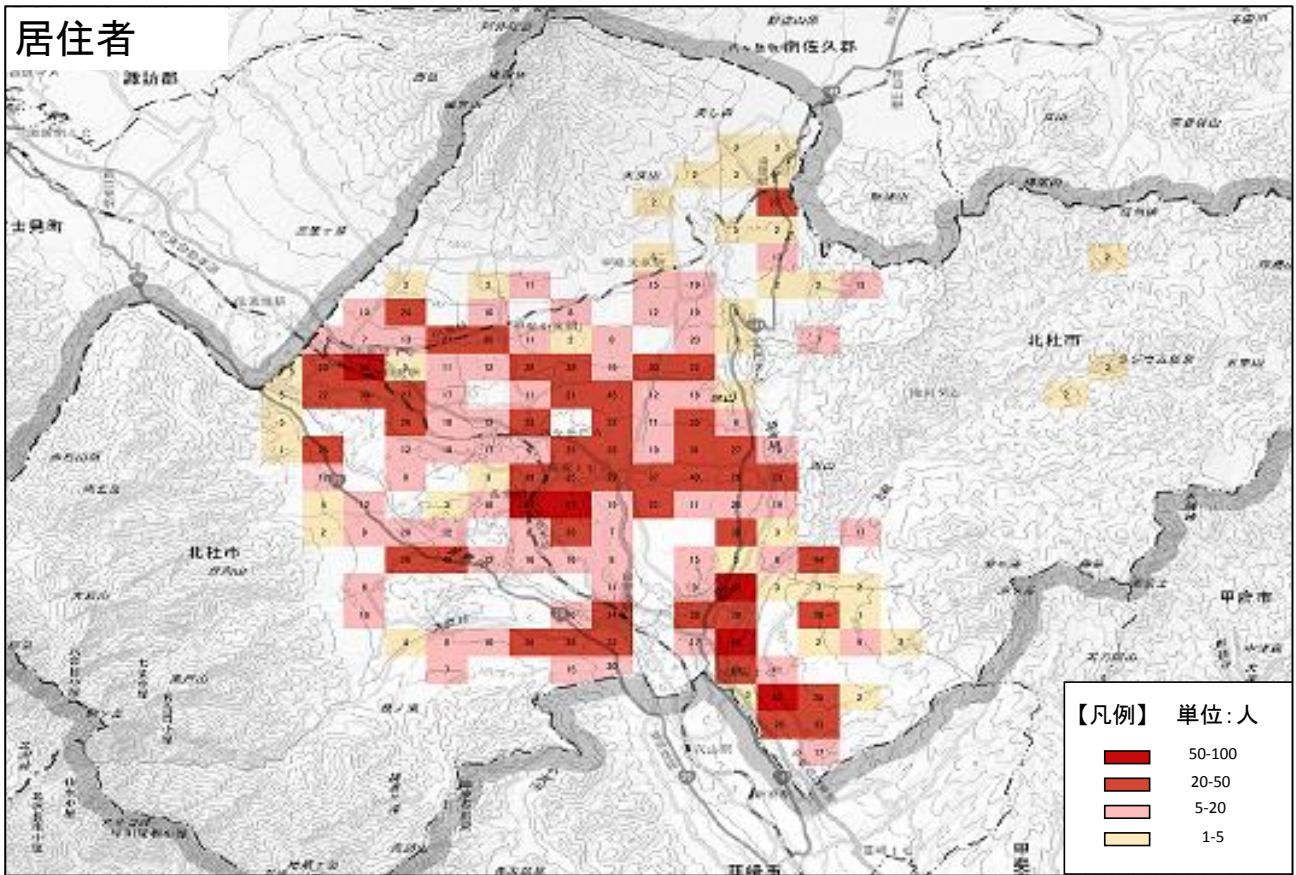
## 地区別交通不便者／非交通不便者



- ◆ 自分の好きな時に使える交通手段では、「自家用車(自分の運転)」と回答した者が 2,715 人で最も多かった。次いで、「自家用車(家族の運転)」が 828 人となっている。
- ◆ 交通不便者は、全体の 5.6%となっている。年代別で見ると、10代は 25.3%、75歳以上は 18.5%が交通不便者となっている。また、地区別では大きな差は見られない。長坂町が 6.8%と最も高く、高根町が 4.3%で最も低い。

# 《9》居住地

N=3,303



- ◆ JR 駅周辺などに回答者が多いエリアが点在している。
- ◆ 回答者が少ないエリアは薄く広く広がっている

---

## Ⅲ-2. 日常の移動実態

---

# 1 通勤・通学移動について

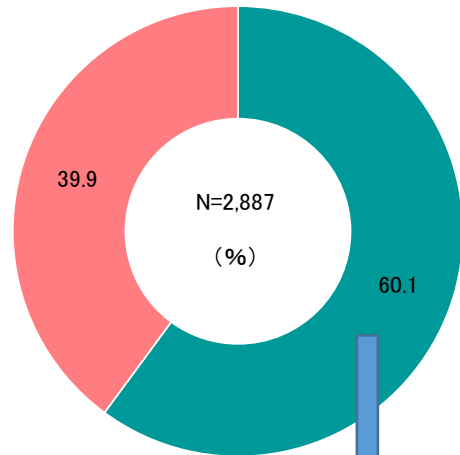
通勤・通学を目的とした移動実態について以下に示す。

## 《1》定期的な通勤・通学の状況

	回答数(人)	割合(%)
定期的に通勤・通学をしている	1,735	60.1
定期的にはしていない	1,152	39.9
合計	2,887	100.0

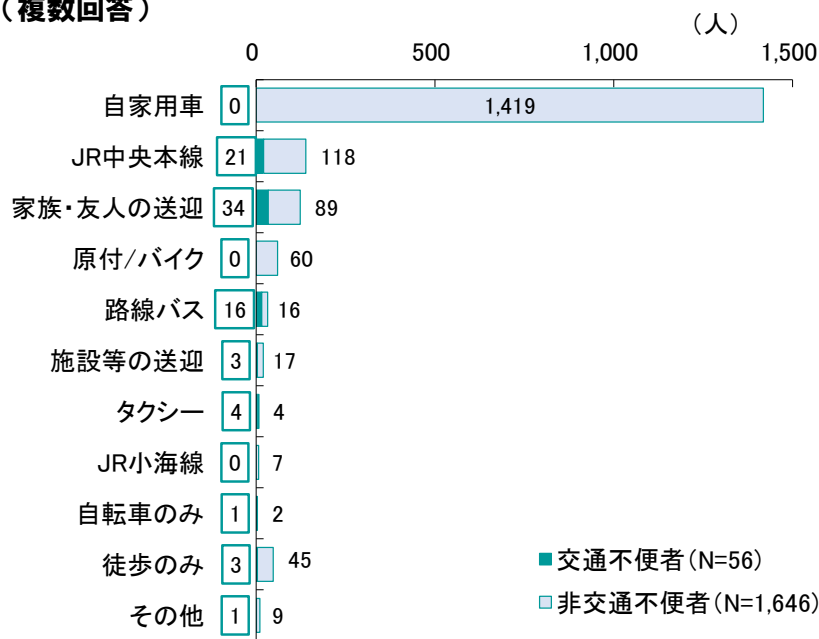
無回答=529

- 定期的に通勤・通学をしている
- 定期的にはしていない



【以下は定期的に通勤・通学をしている者に質問】

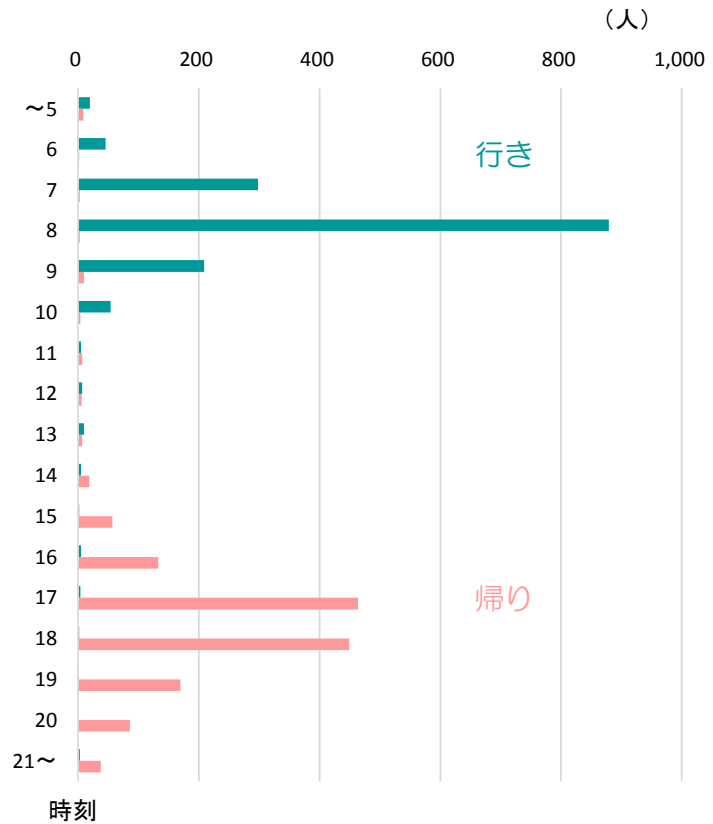
## 《2》移動手段（複数回答）





### 《3》希望する移動時間帯

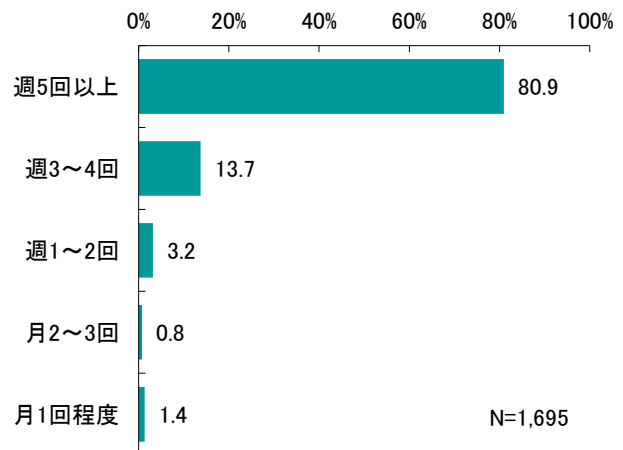
	行き	帰り
0時台	0	4
1時台	2	1
2時台	2	1
3時台	1	0
4時台	8	0
5時台	7	3
6時台	46	2
7時台	298	3
8時台	879	3
9時台	209	10
10時台	54	4
11時台	5	7
12時台	7	6
13時台	10	7
14時台	5	19
15時台	2	57
16時台	5	133
17時台	4	464
18時台	2	449
19時台	1	170
20時台	0	86
21時台	3	22
22時台	0	13
23時台	0	3
合計	1,550	1,467
無回答	185	269



### 《4》移動頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	1,372	80.9
週3~4回	233	13.7
週1~2回	54	3.2
月2~3回	13	0.8
月1回程度	23	1.4
合計	1,695	100.0

無回答=40



- ◆ 通勤・通学している者は全体の 60.1%である。
- ◆ 移動手段としては、自家用車がもっとも多く、公共交通としてはJR中央本線が利用されている。
- ◆ 移動する時間帯としては、行きは朝 8 時台に集中しており、帰りは 17 時～19 時台に目的地を出発している。公共交通での通勤・通学を確保するためには、20 時までの便の確保が必要と考えられる。

《5》 目的地

市外への移動 555人

N=1,529

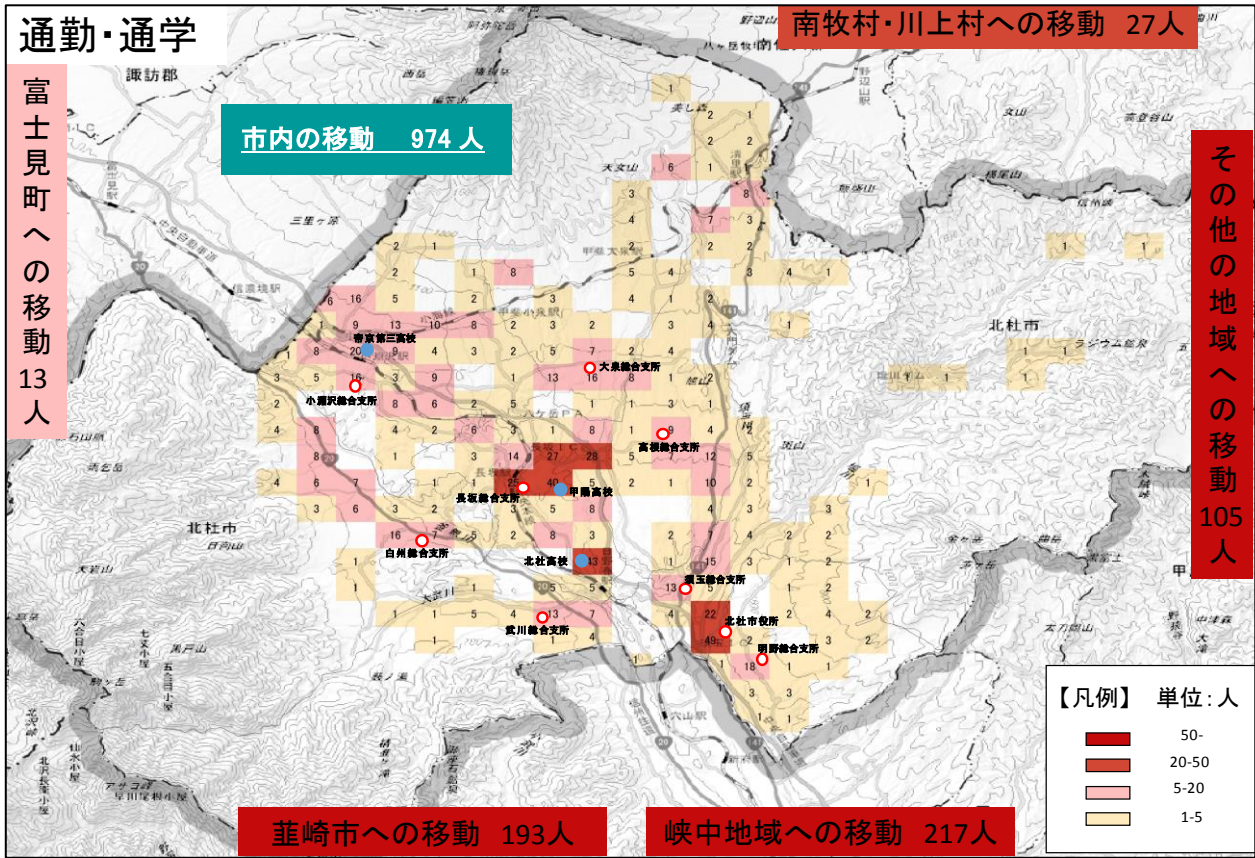
通勤・通学

南牧村・川上村への移動 27人

富士見町への移動 13人

市内の移動 974人

その他の地域への移動 105人



- ◆ 通勤・通学の目的地は韮崎市・峡中地域など市外が主になっている。
- ◆ 市内では北杜市役所、長坂駅、北杜高校周辺に集中が見られる。

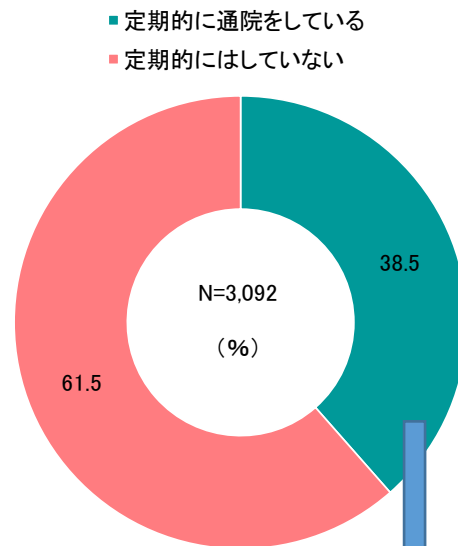
## 2 通院移動について

通院を目的とした移動実態について以下に示す。

### 《1》 定期的な通院の状況

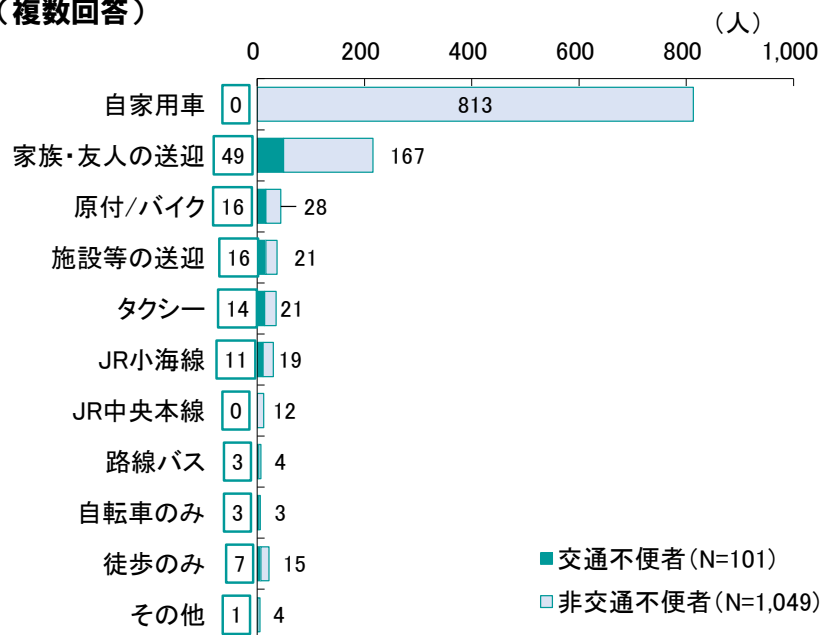
	回答数(人)	割合(%)
定期的に通院をしている	1,191	38.5
定期的にはしていない	1,901	61.5
合計	3,092	100.0

無回答=324



【以下は定期的に通院をしている者に質問】

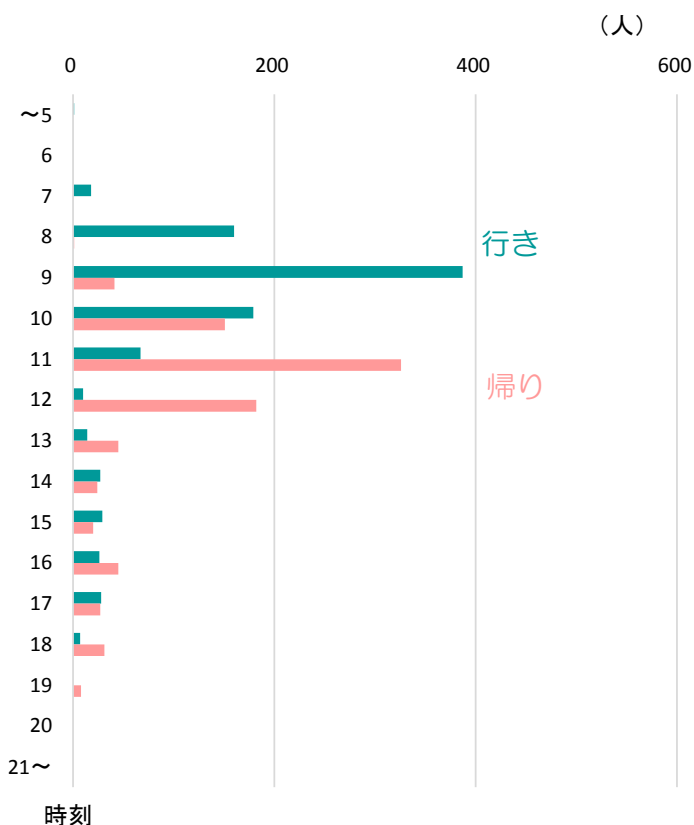
### 《2》 移動手段（複数回答）



### 《3》希望する移動時間帯

	行き	帰り
0時台	1	0
1時台	0	0
2時台	0	0
3時台	0	0
4時台	0	0
5時台	0	0
6時台	0	0
7時台	18	0
8時台	160	1
9時台	387	41
10時台	179	151
11時台	67	326
12時台	10	182
13時台	14	45
14時台	27	24
15時台	29	20
16時台	26	45
17時台	28	27
18時台	7	31
19時台	0	8
20時台	0	0
21時台	0	0
22時台	0	0
23時台	0	0
合計	953	901

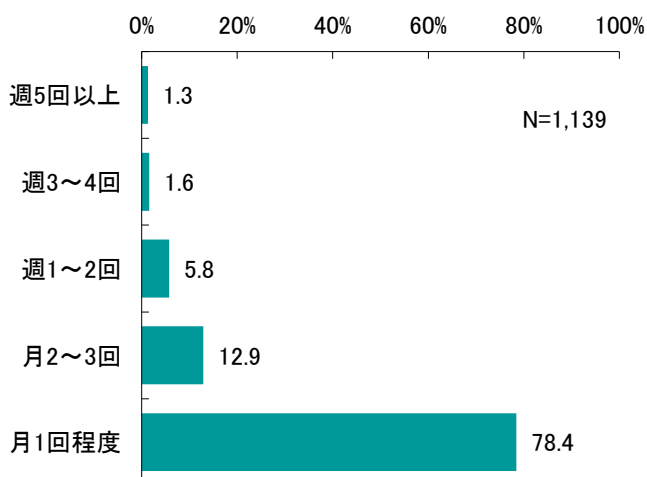
無回答 238 290



### 《4》移動頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	15	1.3
週3~4回	18	1.6
週1~2回	66	5.8
月2~3回	147	12.9
月1回程度	893	78.4
合計	1,139	100.0

無回答=52

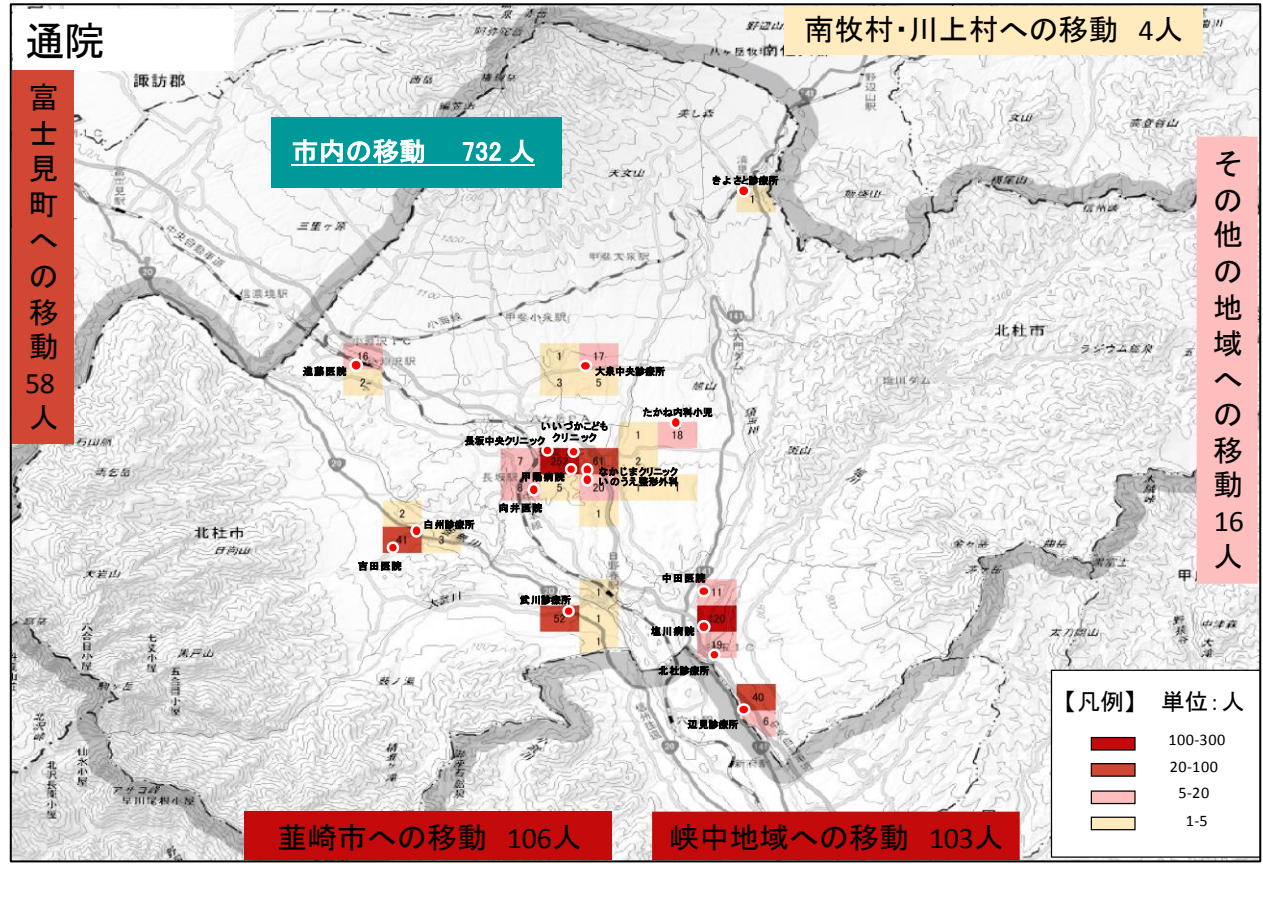


- ◆ 定期的に通院している者は全体の 38.5%である。
- ◆ 移動手段としては、自家用車がもっとも多く、次いで、家族・友人の送迎が利用されている。
- ◆ 移動する時間帯としては、行きは朝 8~10 時台に集中しており、帰りは 10 時~12 時台に目的地を出発している。
- ◆ 移動頻度は月 1 回程度が 78.4%でもっとも多く、月 2~3 回を含めると 90%以上である。

《5》 目的地

市外への移動 287人

N=1,019



- ◆ 通院の目的地は甲陽病院、塩川病院周辺に集中している。また、各地域の診療所周辺を目的としている人も見られる。
- ◆ 蕪崎市、峡中地域、長野県富士見町など市外を目的としている人も多く見られる。

### 3 買物移動について

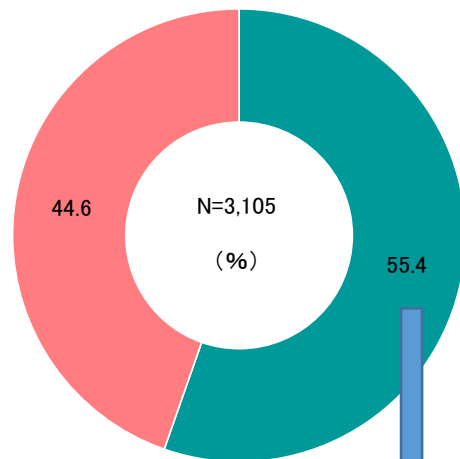
買物を目的とした移動実態について以下に示す。

#### 《1》定期的な買物の状況

	回答数(人)	割合(%)
定期的に買物に行っている	1,719	55.4
定期的にはに行っていない	1,386	44.6
合計	3,105	100.0

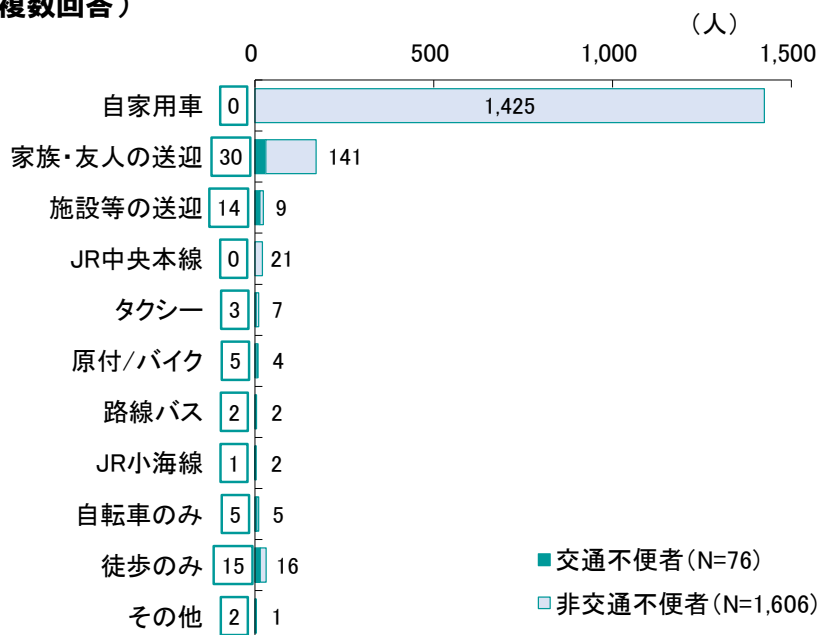
無回答=311

- 定期的に買物に行っている
- 定期的にはに行っていない



【以下は定期的な買物に行っている者に質問】

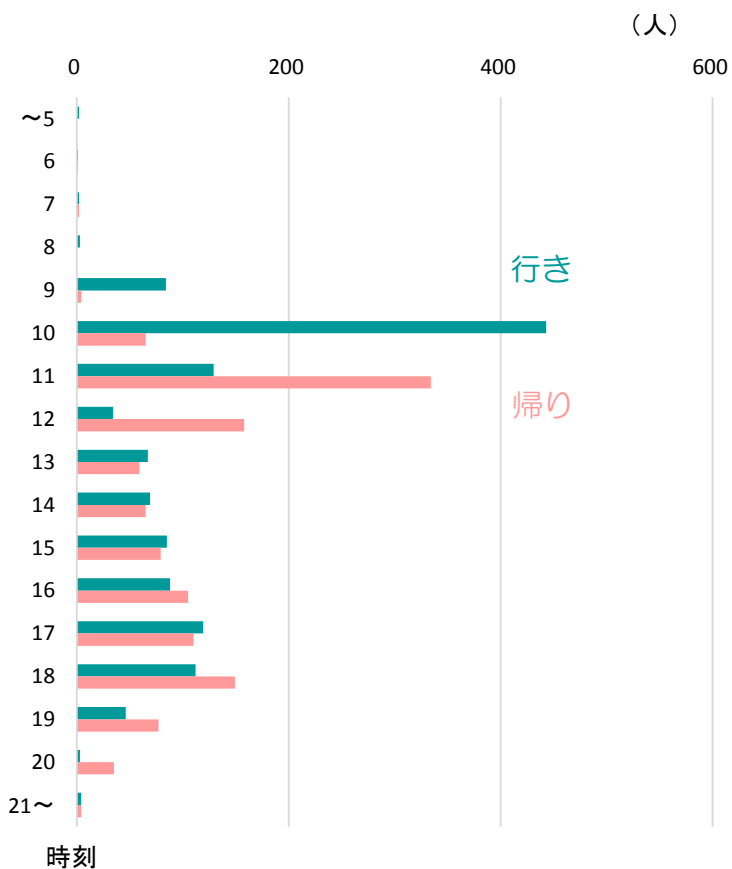
#### 《2》移動手段（複数回答）



### 《3》希望する移動時間帯

	行き	帰り
0時台	0	0
1時台	0	0
2時台	0	0
3時台	0	0
4時台	0	0
5時台	2	0
6時台	1	1
7時台	2	2
8時台	3	0
9時台	84	4
10時台	443	65
11時台	129	334
12時台	34	158
13時台	67	59
14時台	69	65
15時台	85	79
16時台	88	105
17時台	119	110
18時台	112	149
19時台	46	77
20時台	3	35
21時台	2	2
22時台	2	2
23時台	0	0
合計	1,291	1,247

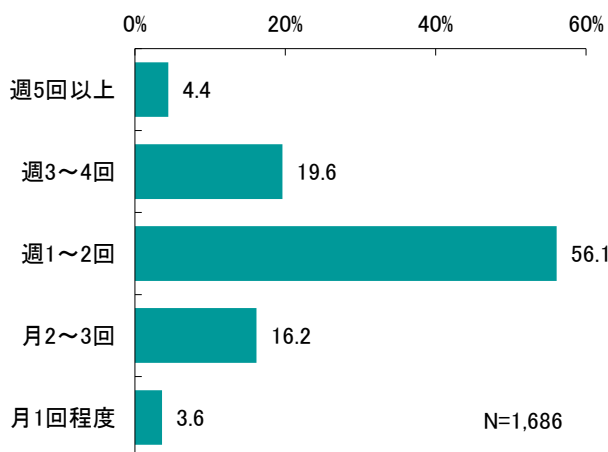
無回答 428 472



### 《4》移動頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	75	4.4
週3~4回	331	19.6
週1~2回	946	56.1
月2~3回	273	16.2
月1回程度	61	3.6
合計	1,686	100.0

無回答=33

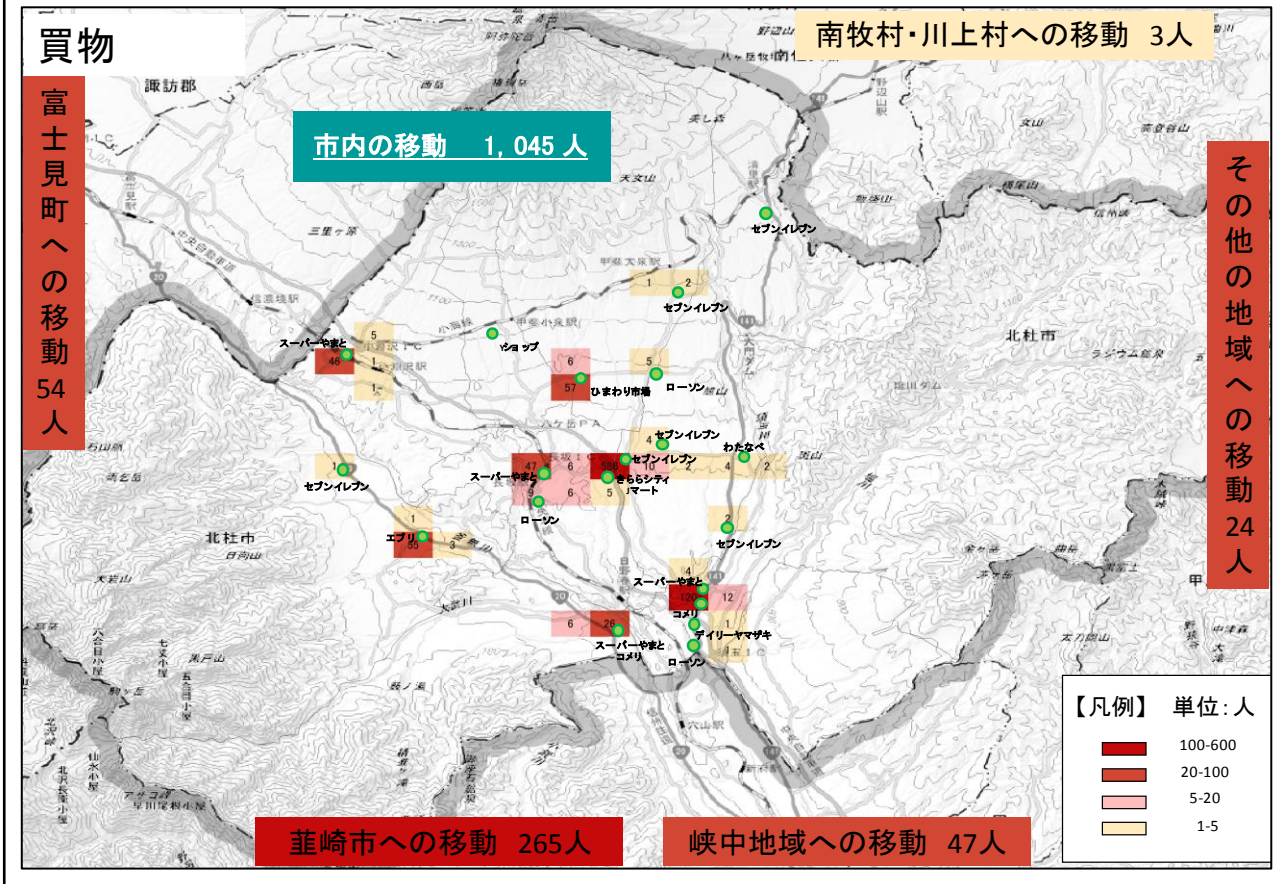


- ◆ 定期的に買物移動をしている者は全体の 55.4%である。
- ◆ 移動手段としては、自家用車がもっとも多く、友人・家族の送迎も利用されている。
- ◆ 移動する時間帯としては、行きは朝 10 時台に集中しており、帰りは 11 時～12 時台に目的地を出発している。午後も、17～18 時台をピークに一定の移動需要がみられる。
- ◆ 移動頻度は週 1～2 回多くなっており、80%以上の人々が週 1 回以上買物に行っている。

《5》 目的地

市外への移動 393 人

N=1,438



- ◆ 買物の目的地はきららシティが最も多くなっている。また、市内にある主要な商業施設にも集中が見られる。
- ◆ 市外では富士崎市への移動が多く見られる。



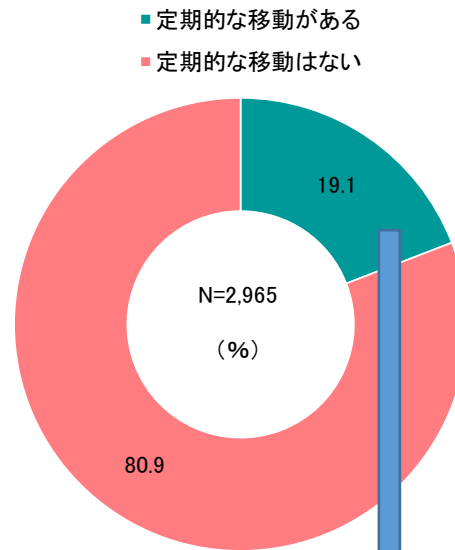
## 4 その他の移動について

その他を目的とした移動実態について以下に示す。

### 《1》 その他の定期的な移動の状況

	回答数(人)	割合(%)
定期的な移動がある	567	19.1
定期的な移動はない	2,398	80.9
合計	2,965	100.0

無回答=451

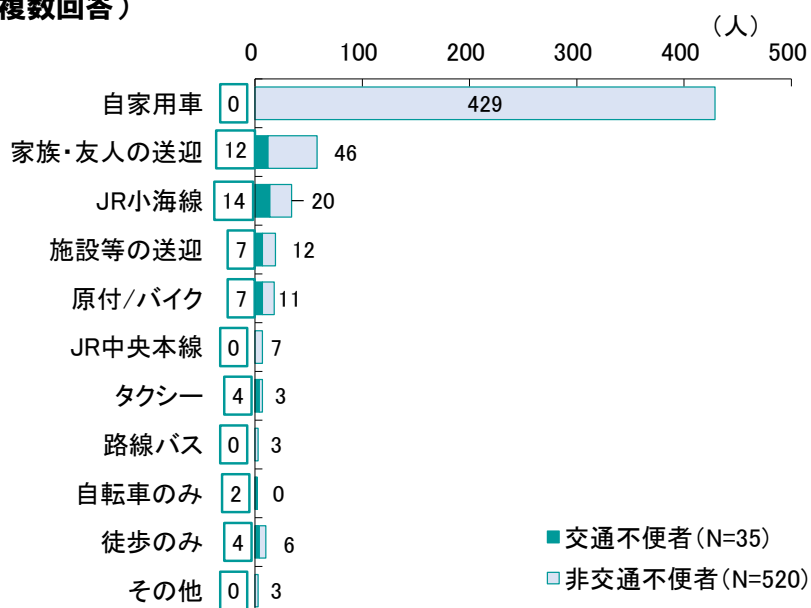


【以下はその他の目的で定期的な移動をしている者に質問】

### 《2》 移動目的

	回答数(人)		回答数(人)
スポーツ	73	会議・会合	12
福祉施設(通所・面会)	38	ボランティア活動	11
趣味の活動	43	病院	9
子どもの送迎(塾・習い事)	26	飲食	9
子どもの送迎(保育園・学童)	14	図書館	9
田畑に農作業	18	実家へ	5
温泉	18	信仰(教会等)	8

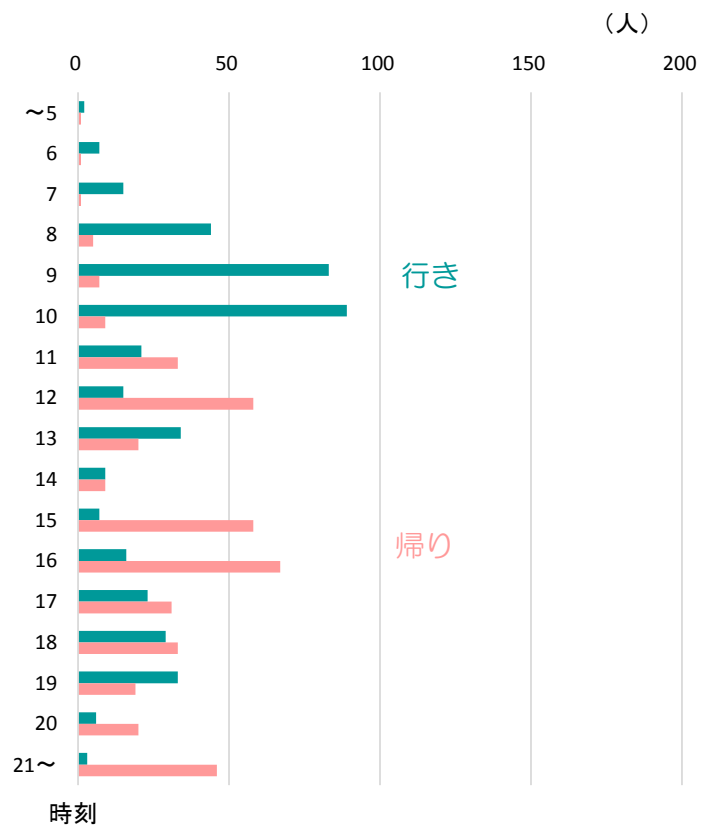
### 《3》 移動手段(複数回答)



#### 《4》希望する移動時間帯

	行き	帰り
0時台	0	0
1時台	1	0
2時台	0	0
3時台	0	0
4時台	1	0
5時台	0	1
6時台	7	1
7時台	15	1
8時台	44	5
9時台	83	7
10時台	89	9
11時台	21	33
12時台	15	58
13時台	34	20
14時台	9	9
15時台	7	58
16時台	16	67
17時台	23	31
18時台	29	33
19時台	33	19
20時台	6	20
21時台	2	33
22時台	1	13
23時台	0	0
合計	436	418

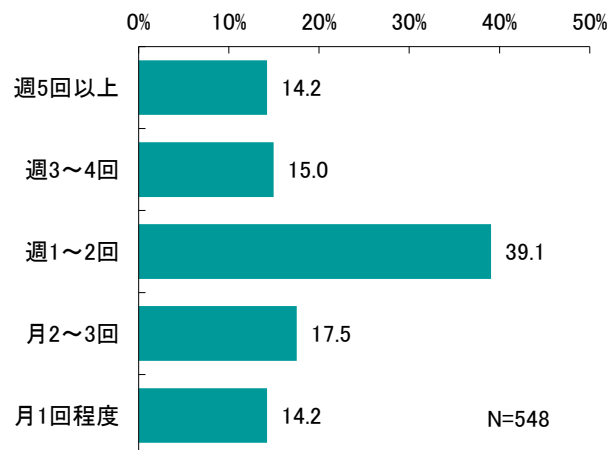
無回答 131 149



#### 《5》移動頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	78	14.2
週3~4回	82	15.0
週1~2回	214	39.1
月2~3回	96	17.5
月1回程度	78	14.2
合計	548	100.0

無回答=19

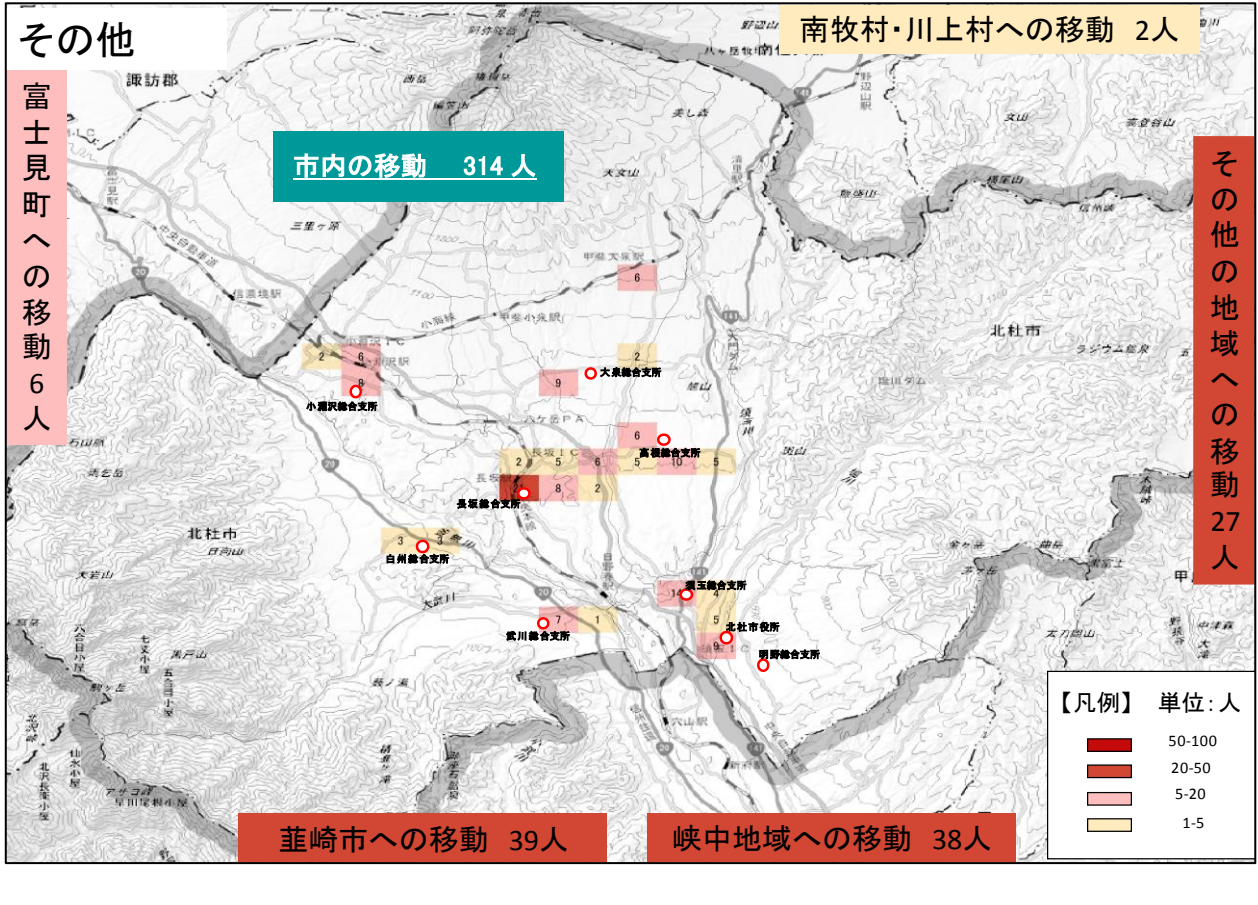


- ◆ その他の移動目的としては、スポーツ・スポーツ施設、福祉施設への通所、子どもの送迎(塾・習い事)、趣味の活動などが見られた。全体の19.1%が定期的な移動があると回答している。
- ◆ 移動手段としては、自家用車がもっとも多い。
- ◆ 移動頻度は週1~2回が39.1%でもっとも多い。
- ◆ 移動する時間帯としては、行きは朝8~10時台にピークが見られ、帰りは11~12時台、15~16時台、21以降にピークが分散している。

《5》 目的地

市外への移動 112人

N=426



- ◆ その他の目的地は、韮崎市、峡中地域、その他の地域など市外への移動が多くなっている。
- ◆ 市内では、長坂駅周辺に集中が見られる。

## 5 休日の移動について

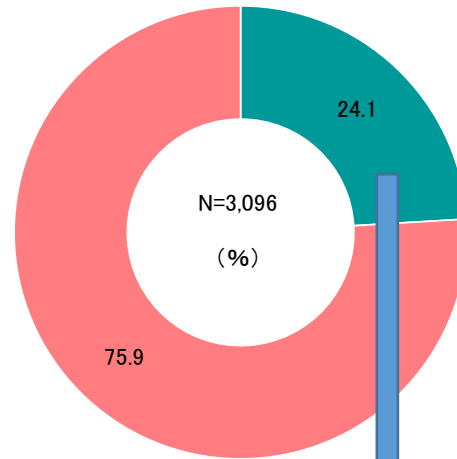
休日の移動実態について以下に示す。

### 《1》 休日の定期的な移動の状況

	回答数(人)	割合(%)
休日に定期的な移動がある	745	24.1
休日に定期的な移動はない	2,351	75.9
合計	3,096	100.0

無回答=320

- 休日に定期的な移動がある
- 休日に定期的な移動はない

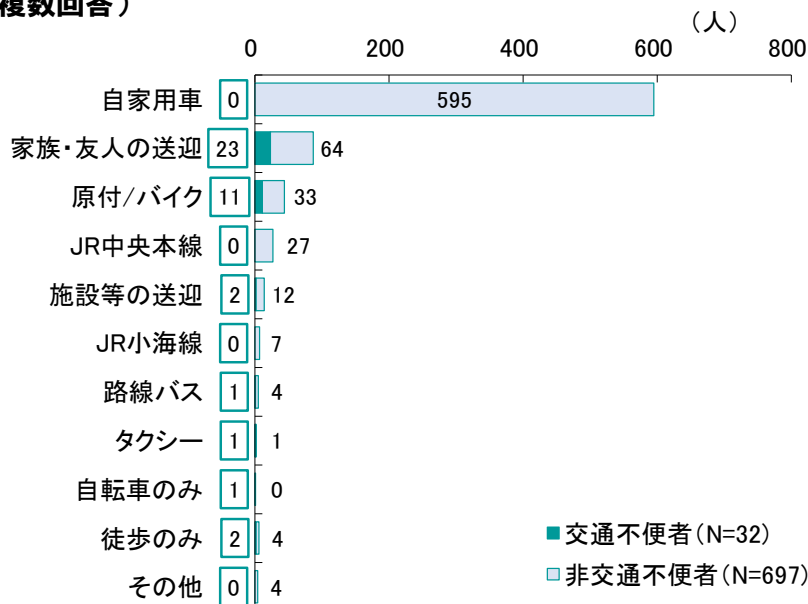


【以下は休日に移動をしている者に質問】

### 《2》 移動目的

	回答数(人)		回答数(人)
通勤	210	田畑に農作業	11
買物	167	信仰(教会等)	10
通学(部活動等)	50	アルバイト	7
子どもの送迎(塾・習い事)	25	ボランティア活動	5
家族の送迎	7	温泉	5
スポーツ	17	レジャー	4
趣味の活動	15	実家へ	3
病院	14		

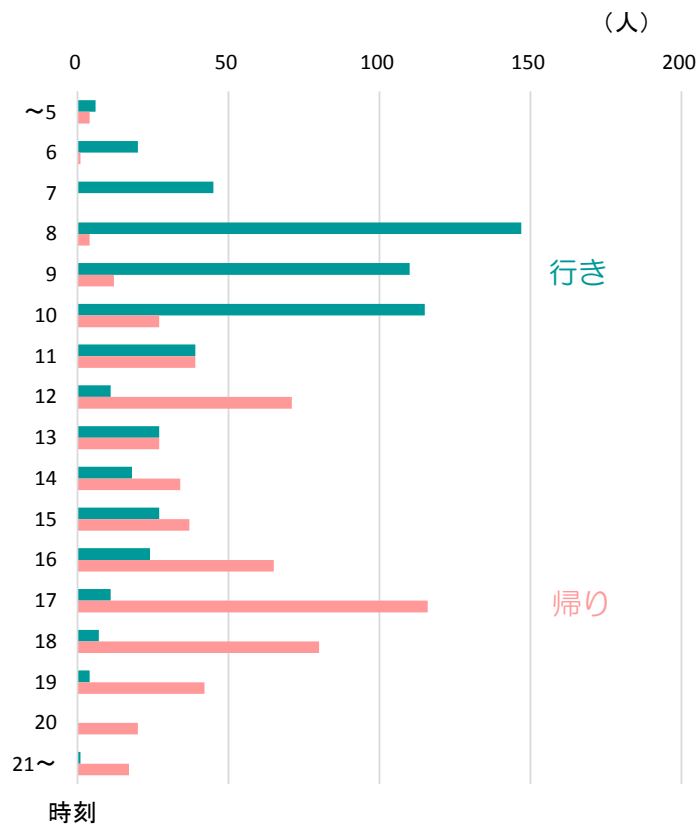
### 《3》 移動手段(複数回答)



#### 《4》希望する移動時間帯

	行き	帰り
0時台	0	3
1時台	0	1
2時台	0	0
3時台	0	0
4時台	2	0
5時台	4	0
6時台	20	1
7時台	45	0
8時台	147	4
9時台	110	12
10時台	115	27
11時台	39	39
12時台	11	71
13時台	27	27
14時台	18	34
15時台	27	37
16時台	24	65
17時台	11	116
18時台	7	80
19時台	4	42
20時台	0	20
21時台	1	9
22時台	0	6
23時台	0	2
合計	612	596

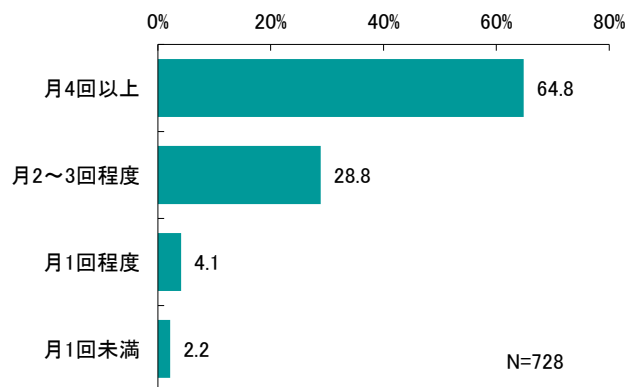
無回答 133 149



#### 《5》移動頻度

	回答数(人)	割合(%)
月4回以上	472	64.8
月2~3回程度	210	28.8
月1回程度	30	4.1
月1回未満	16	2.2
合計	728	100.0

無回答=17

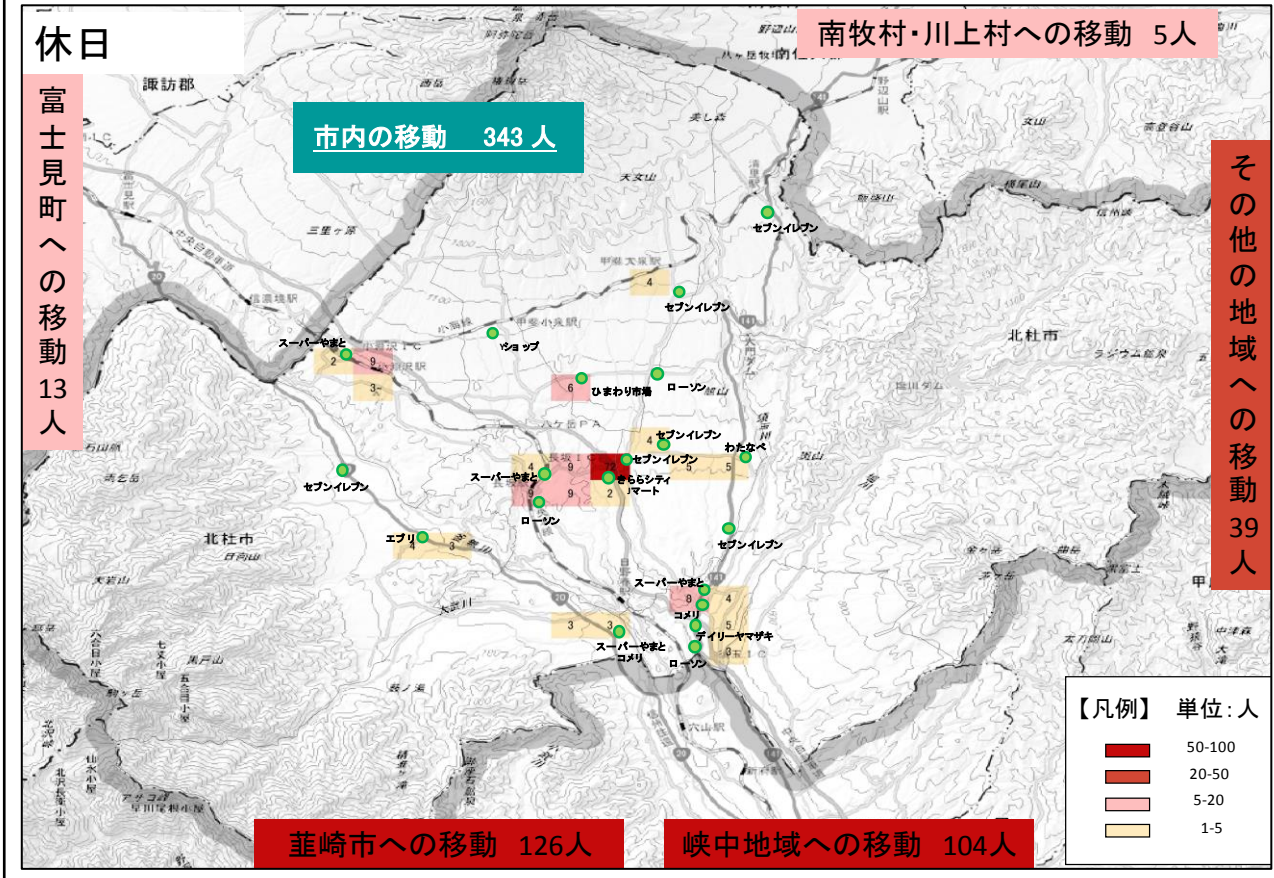


- ◆ 休日の移動目的としては、通勤、買物、学校(部活動)、子どもの送迎(塾・習い事)などが見られた。全体の24.1%が休日に定期的な移動があると回答している。
- ◆ 移動手段としては、自家用車をもっとも多い。
- ◆ 移動頻度は月4回以上が64.8%でもっとも多い。
- ◆ 移動する時間帯としては、行きは朝8~10時台に集中しており、帰りは11時~12時と16時~18時台で多くなっており、行動内容によって時間帯が分散していると考えられる。

《5》目的地

市外への移動 287人

N=630

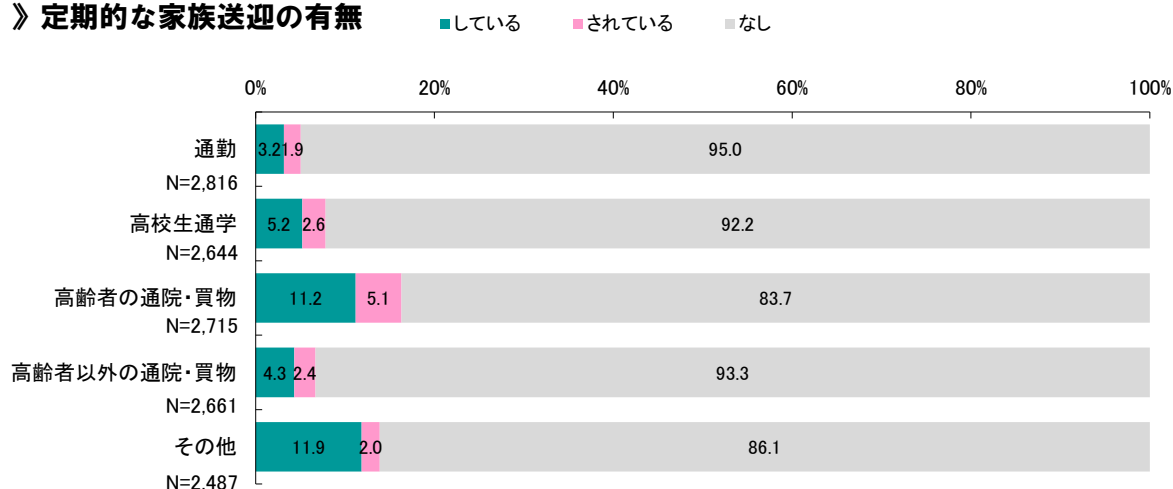


- ◆ 休日の目的地は韮崎市、峡中地域など市外への移動が主になっている。
- ◆ 市内ではさらにシティ周辺に集中が見られる。

## 6 家族送迎について

家族送迎の実態について以下に示す。

### 《1》定期的な家族送迎の有無



### その他の目的（主なもの）

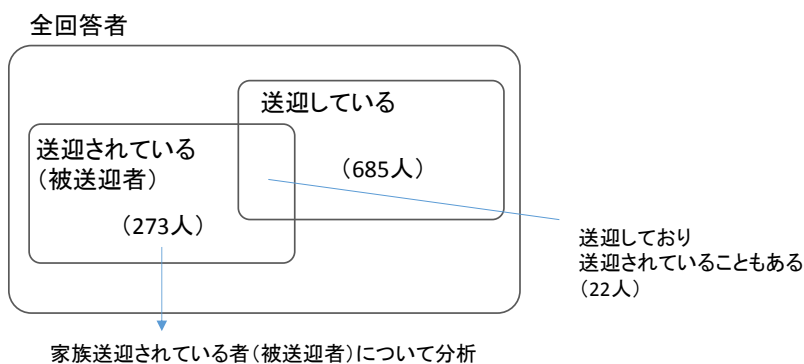
	回答数(人)
保育園	87
子どもの塾・習い事	36
小学校	16
中学校	13
趣味活動	11
子供の部活動	8
小学校、中学校	7
習い事	5
保育園、小学校	5
スポーツ	4

- ◆ 家族送迎の目的としては、送迎者／被送迎者とも「高齢者の通院・買物」がもっとも多い。
- ◆ その他の目的では、保育園や小中学校、子どもの塾・習い事、趣味の活動への送迎などがある。

### 《2》家族送迎をされている者の属性

アンケートでは、通勤、高校生の通学・・・といった目的ごとの家族送迎の有無を聞いている。これらをまとめて、何らかの目的で家族送迎をしている者、されている者（被送迎者）を集計したところ家族送迎をされている者は273人確認された。家族送迎をされている者について、その属性を分析する。

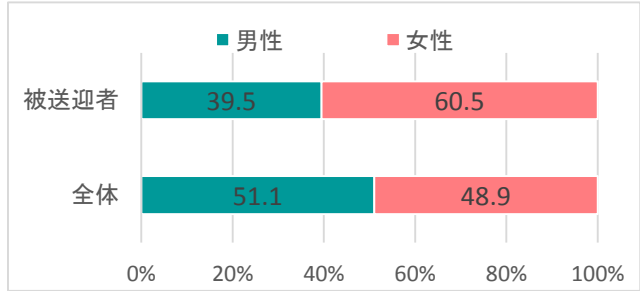
### 送迎している、されている者の整理



### ① 性別

	全回答者		被送迎者	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
男性	1,696	51.1	107	39.5
女性	1,626	48.9	164	60.5
合計	3,322	100.0	271	100.0

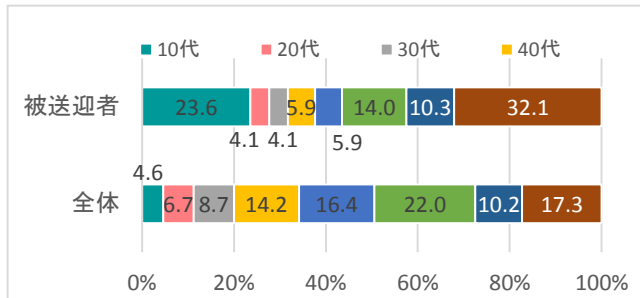
無回答=94                      無回答=2



### ② 年代

	全回答者		被送迎者	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
10代	153	4.6	64	23.6
20代	222	6.7	11	4.1
30代	291	8.7	11	4.1
40代	471	14.2	16	5.9
50代	546	16.4	16	5.9
60代	731	22.0	38	14.0
70~74歳	339	10.2	28	10.3
75歳以上	575	17.3	87	32.1
合計	3,328	100.0	271	100.0

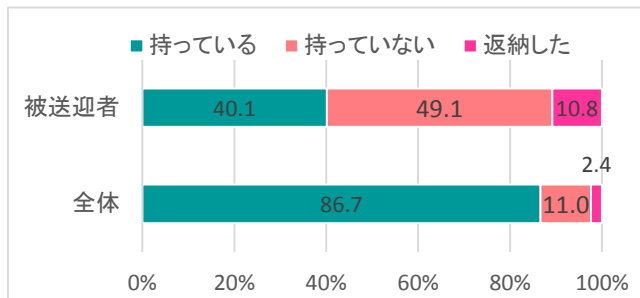
無回答=88                      無回答=2



### ③ 運転免許の保有

	全回答者		被送迎者	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
持っている	2,907	86.7	108	40.1
持っていない	368	11.0	132	49.1
返納した	79	2.4	29	10.8
合計	3,354	100.0	269	100.0

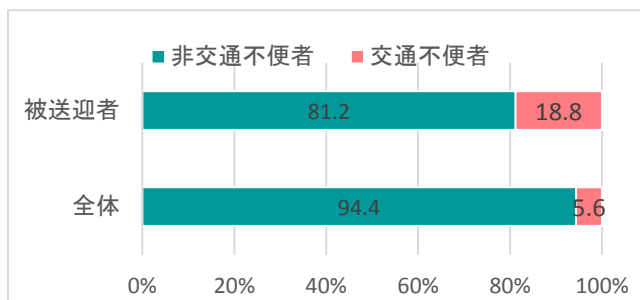
無回答=62                      無回答=4



### ④ 交通属性 (交通不便者・非不便者)

	全回答者		被送迎者	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
非交通不便者	3,097	94.4	216	81.2
交通不便者	185	5.6	50	18.8
合計	3,282	100.0	266	100.0

無回答=134                      無回答=7

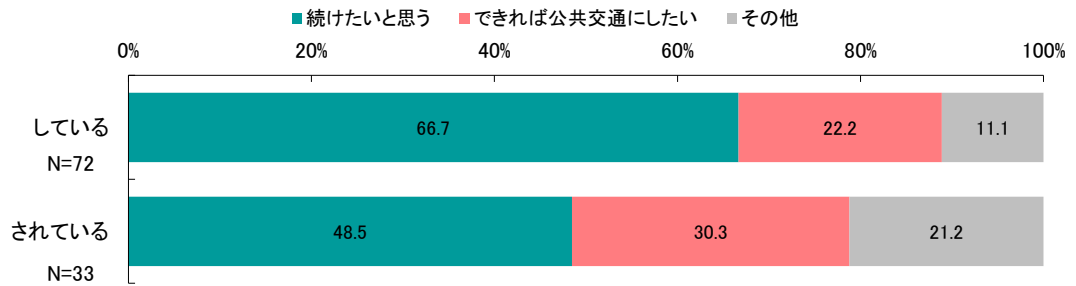


- ◆ 被送迎者は女性の割合が高く、年代では10代及び75歳以上で多く見られる。
- ◆ 運転免許は持っていない者の割合が高くなるが、交通不便者の割合は極端に高くはならない。これは、家族送迎をいつでも利用できる者を交通非不便者としているためである。

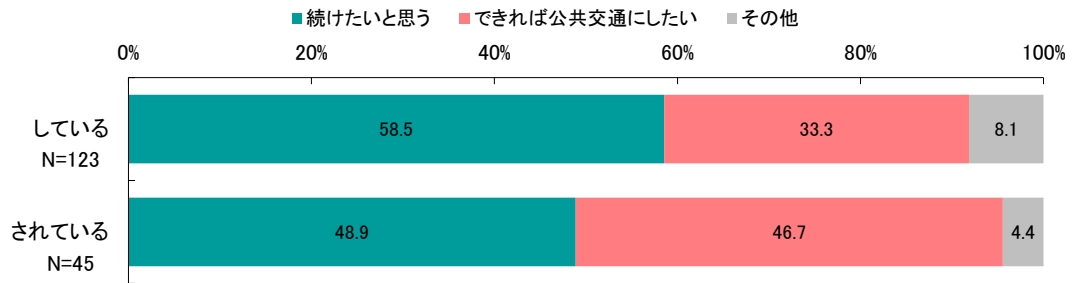


### 《3》各目的の送迎者／被送迎者の継続意向

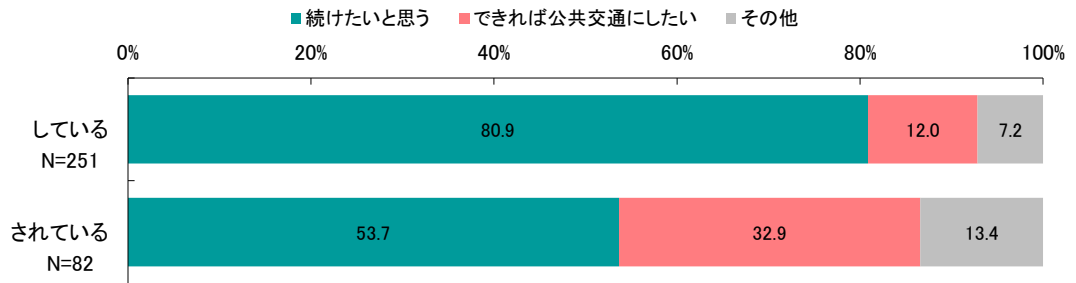
#### ① 通勤のための送迎



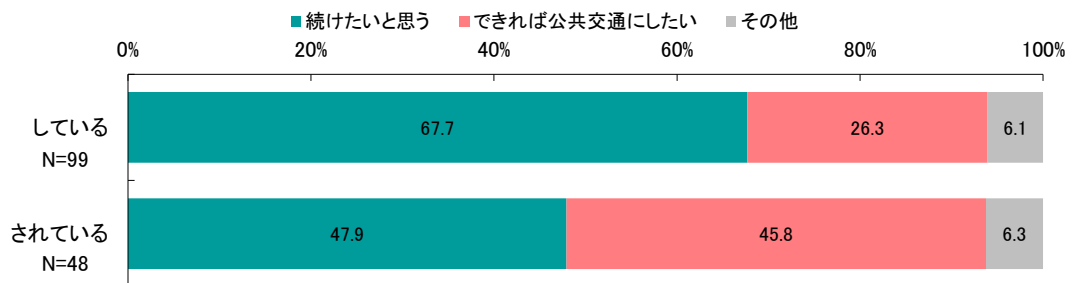
#### ② 高校生の通学のための送迎



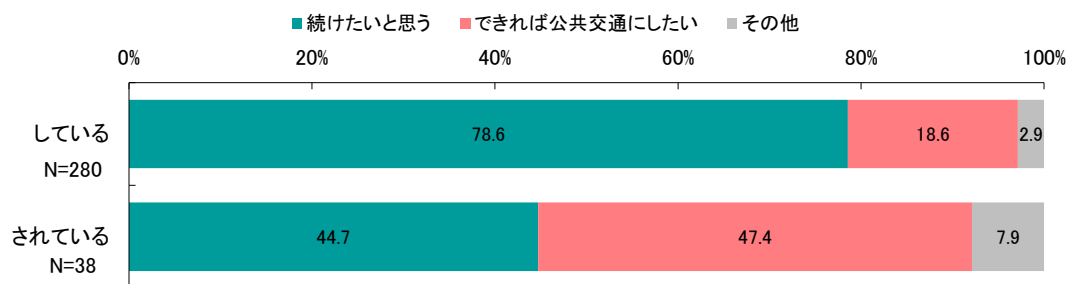
#### ③ 高齢者の通院・買物のための送迎



#### ⑤ 高齢者の以外通院・買物のための送迎



## ⑤ その他の目的の送迎



- ◆ 各目的の送迎者／被送迎者の継続意向を見ると、「高齢者の通院・買物」の送迎者の80.9%が「続けたい」と回答しているなど多くの人が現在の移動を変えたいとは思っていない。
- ◆ 各目的とも、送迎者よりも被送迎者の公共交通への転換意向が高く、3～5割の被送迎者転換意向を持っていることが分かる。

---

## Ⅲ-3. 公共交通の利用状況

---

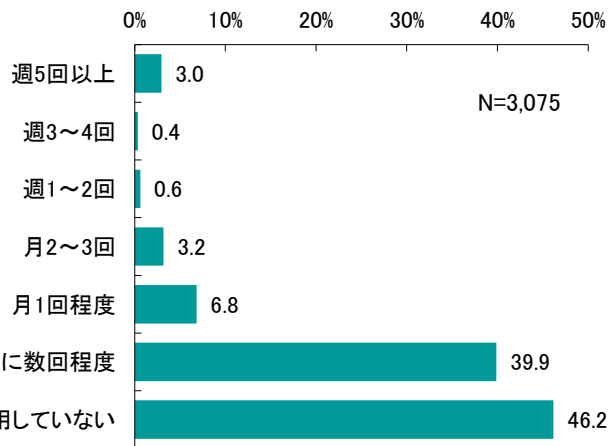
# 1 JR 利用状況

JR の利用状況について以下に示す。

## 《1》利用頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	91	3.0
週3~4回	11	0.4
週1~2回	19	0.6
月2~3回	98	3.2
月1回程度	210	6.8
年に数回程度	1,226	39.9
まったく利用していない	1,420	46.2
合計	3,075	100.0

無回答=341

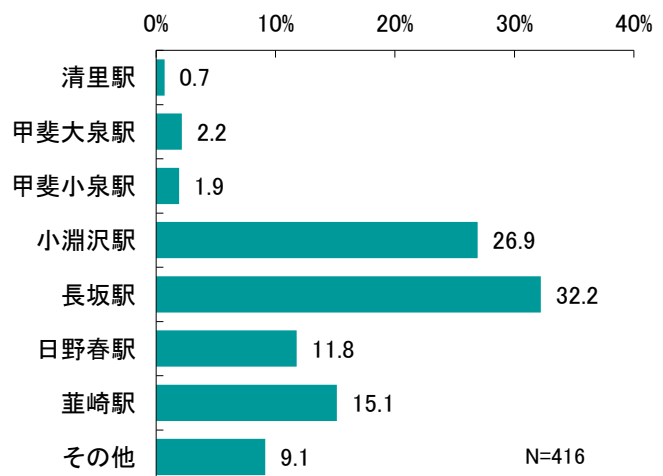


【以下は月1回以上 JR の利用がある者に質問】

## 《2》最頻利用駅

	回答数(人)	割合(%)
清里駅	3	0.7
甲斐大泉駅	9	2.2
甲斐小泉駅	8	1.9
小淵沢駅	112	26.9
長坂駅	134	32.2
日野春駅	49	11.8
韮崎駅	63	15.1
その他	38	9.1
合計	416	100.0

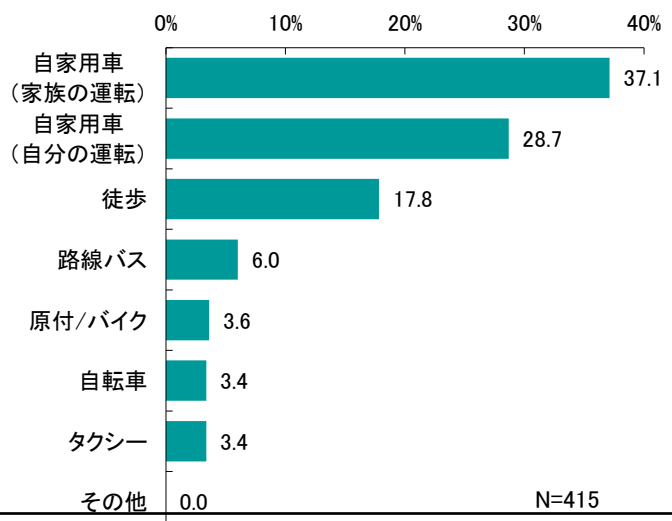
無回答=13



## 《3》最頻利用駅までの移動手段

	回答数(人)	割合(%)
自家用車(家族の運転)	154	37.1
自家用車(自分の運転)	119	28.7
徒歩	74	17.8
路線バス	25	6.0
原付/バイク	15	3.6
自転車	14	3.4
タクシー	14	3.4
その他	0	0.0
合計	415	100.0

無回答=14



- ◆ JR を月に 1 回以上利用している者は、全体の 14.0% である。

- ◆ 利用駅までの移動手段としては、自家用車(家族の運転)が37.1%でもっとも多く、次いで、自家用車(自分の運転)が28.7%となっている。

## 2 路線バスの利用について

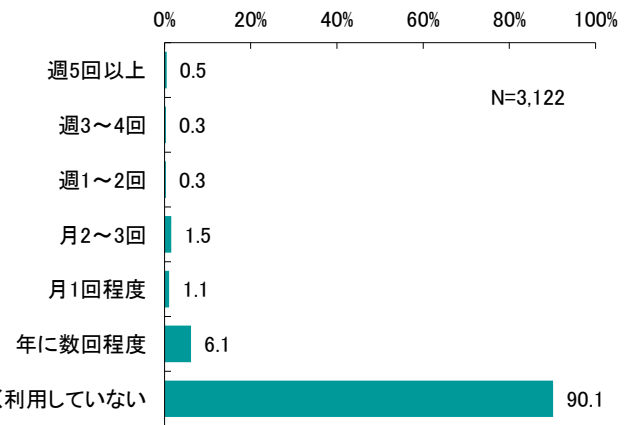
路線バスの利用状況について以下に示す。

### 《1》路線バス利用頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	15	0.5
週3~4回	10	0.3
週1~2回	10	0.3
月2~3回	48	1.5
月1回程度	34	1.1
年に数回程度	191	6.1
まったく利用していない	2,814	90.1
合計	3,122	100.0

無回答=294

まったく利用していない



- ◆ 路線バスを月に1回以上利用している者は、全体の3.7%である。90.1%が「まったく利用していない」と回答している。

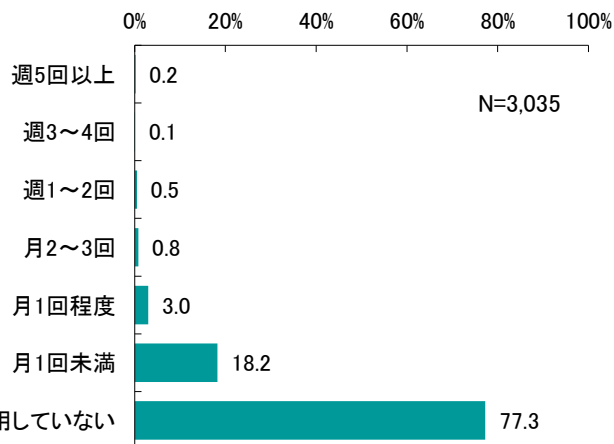
### 3 高速バスの利用について

高速バスの利用状況と利用意向について以下に示す。

#### 《1》高速バス利用頻度

	回答数(人)	割合(%)
週5回以上	6	0.2
週3~4回	2	0.1
週1~2回	15	0.5
月2~3回	24	0.8
月1回程度	90	3.0
月1回未満	553	18.2
まったく利用していない	2,345	77.3
合計	3,035	100.0

無回答=381

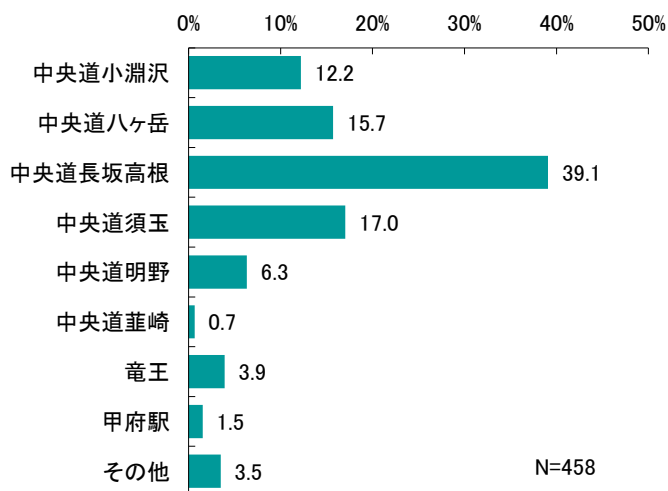


【以下は年1回以上高速バスの利用がある者に質問】

#### 《2》最頻利用乗降場所

	回答数(人)	割合(%)
中央道小淵沢	56	12.2
中央道八ヶ岳	72	15.7
中央道長坂高根	179	39.1
中央道須玉	78	17.0
中央道明野	29	6.3
中央道韭崎	3	0.7
竜王	18	3.9
甲府駅	7	1.5
その他	16	3.5
合計	458	100.0

無回答=232



- ◆ 高速バスを年に1回以上利用している者は、全体の22.8%である。路線バスの利用頻度より高い割合となっている。
- ◆ 乗降場所については、中央道長坂高根が39.1%でもっとも多く、次いで、中央道須玉が17.0%、中央道八ヶ岳が15.7%と続いている。

---

## Ⅲ-4. 今後の公共交通の利用意向

---

# 1 今後の公共交通の利用意向について

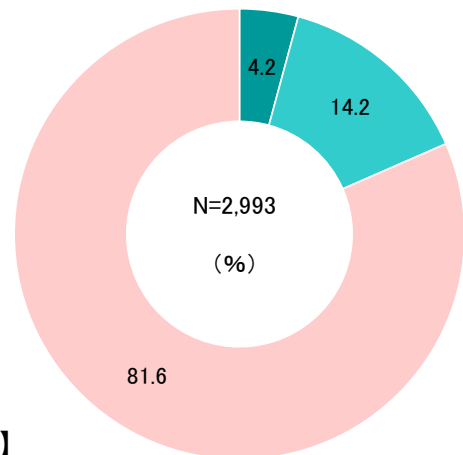
今後の公共交通の利用（転換）意向について以下に示す。

## 《1》自家用車から公共交通・徒歩・自転車中心への転換意向

	回答数(人)	割合(%)
既に公共交通や 徒歩・自転車中心で移動している	126	4.2
変えたいと思う	426	14.2
変えたいとは思わない	2,441	81.6
合計	2,993	100.0

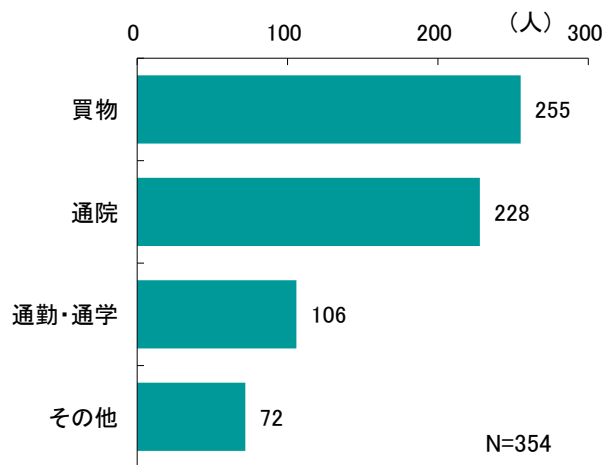
無回答=423

- 既に公共交通や徒歩・自転車中心で移動している
- 変えたいと思う
- 変えたいとは思わない



【以下は自家用車から公共交通へ変えたいと思う者に質問】

## 《2》公共交通や徒歩・自転車中心に転換したい移動（複数回答）

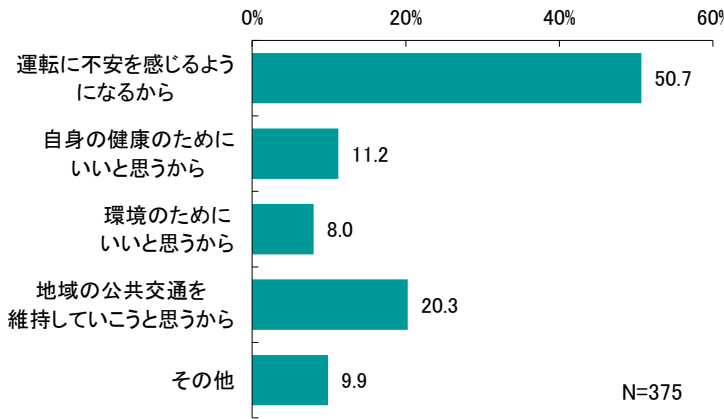




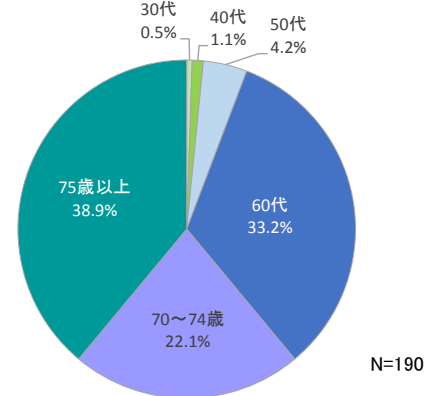
### 《3》公共交通や徒歩・自転車中心に転換したい理由

	回答数(人)	割合(%)
運転に不安を感じるようになるから	190	50.7
自身の健康のためにいいと思うから	42	11.2
環境のためにいいと思うから	30	8.0
地域の公共交通を維持していこうと思うから	76	20.3
その他	37	9.9
合計	375	100.0

無回答=51

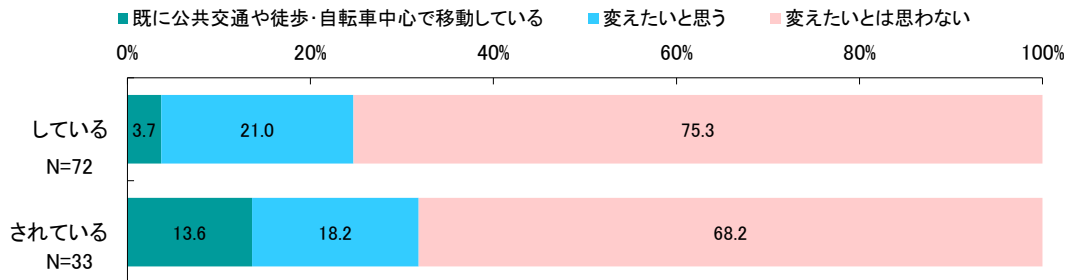


#### 年代内訳

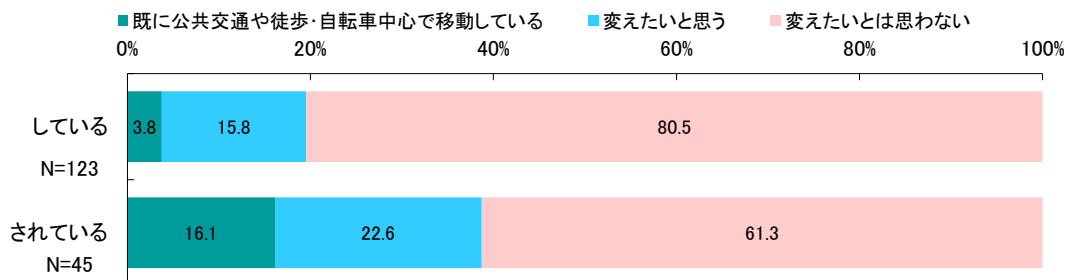


### 《4》各目的の送迎者／被送迎者の公共交通利用意向

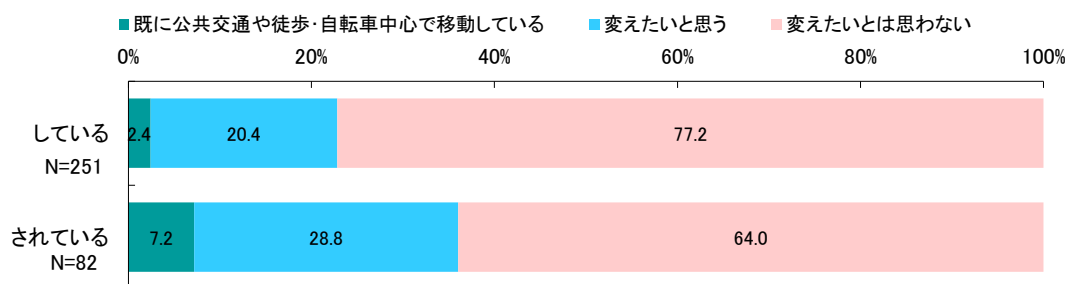
#### ①通勤のための送迎



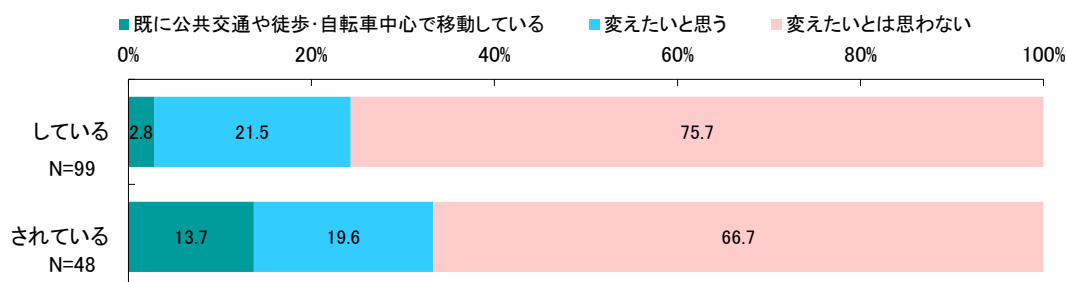
#### ②高校生の通学のための送迎



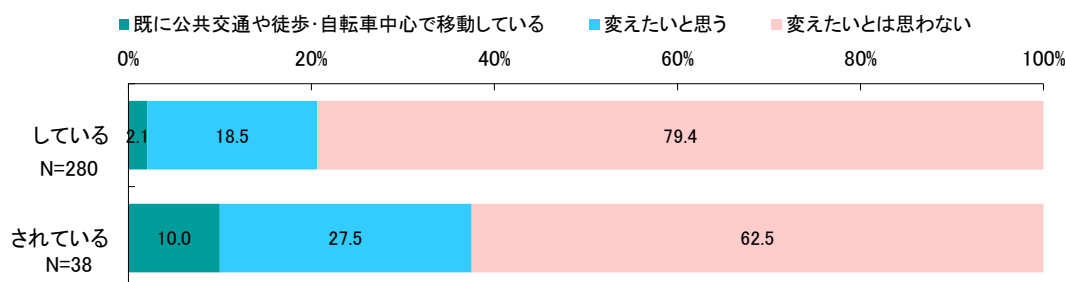
### ③高齢者の通院・買物のための送迎



### ④高齢者の以外通院・買物のための送迎



### ⑤その他の目的の送迎



- ◆ ふだんの移動手段を自家用車から公共交通・徒歩・自転車中心へ転換したい者は、全体の 14.2% である。
- ◆ 転換したい目的としては、買物が 255 人でもっとも多く、次いで、通院が 228 人となっている。
- ◆ 転換したい理由では、「運転に不安を感じるようになるから」が 50.7% でもっとも多い。次いで、「地域の公共交通を維持していこうと思うから」が 20.3% となっている。
- ◆ 家族送迎の各目的の送迎者／被送迎者では、「高校生の通学」「高齢者の通院・買物」「その他の目的」では、送迎者よりも被送迎者の転換意向の割合が高くなっている。公共交通への需要は充分あることが分かる。

---

## Ⅲ-5. 今後の公共交通のあり方

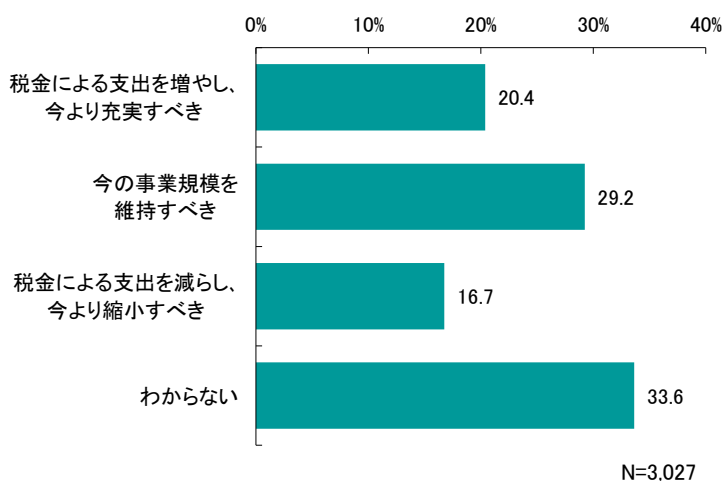
---

# 1 今後の公共交通のあり方について

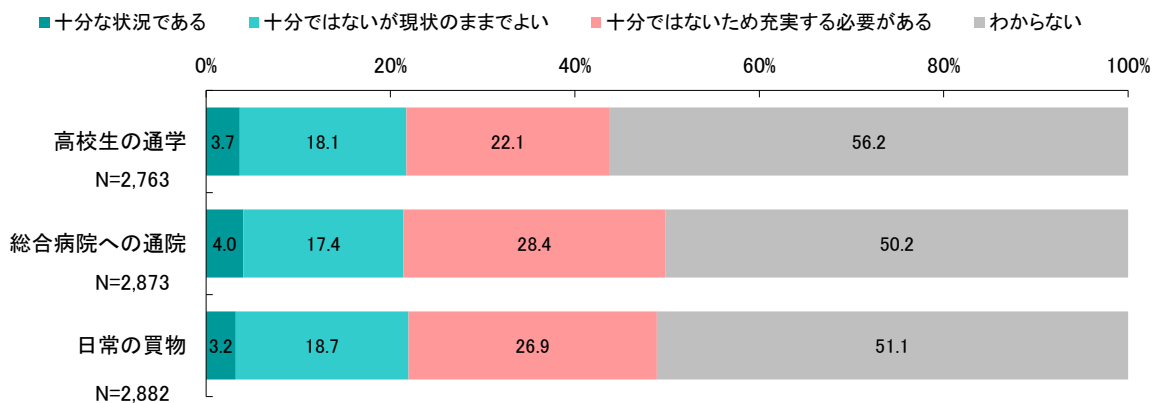
## 《1》税金による公共交通の運行について

	回答数(人)	割合(%)
税金による支出を増やし、今より充実すべき	617	20.4
今の事業規模を維持すべき	885	29.2
税金による支出を減らし、今より縮小すべき	507	16.7
わからない	1,018	33.6
合計	3,027	100.0

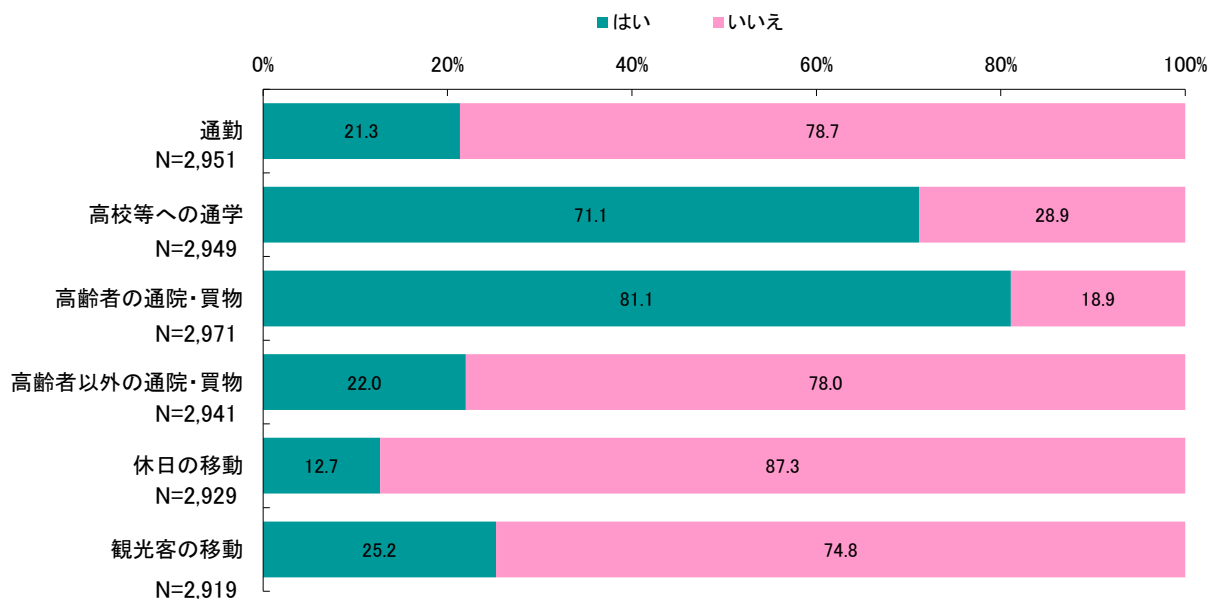
無回答=389



## 《2》北杜市の路線バスは充実しているか



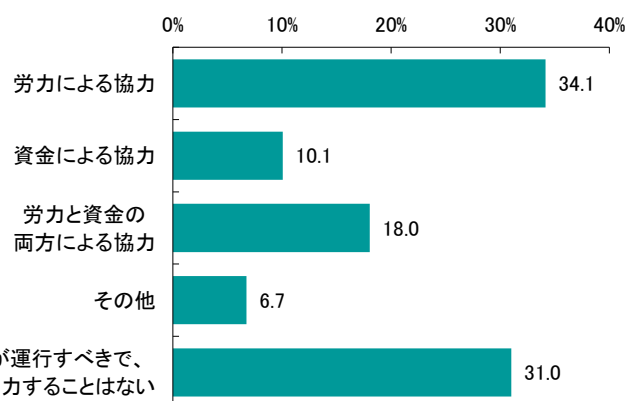
### 《3》税金を使って対応することが妥当だと思う公共交通



### 《4》市民バス維持のための市民の協力について

	回答数(人)	割合(%)
労力による協力	926	34.1
資金による協力	273	10.1
労力と資金の両方による協力	489	18.0
その他	183	6.7
行政等が運行すべきで、市民が協力することはない	841	31.0
合計	2,712	100.0

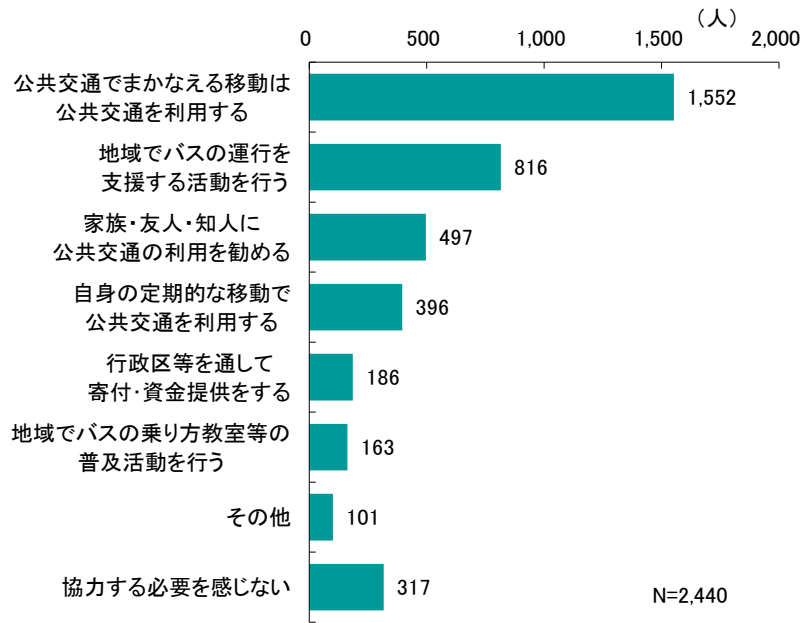
無回答=704



N=2,712

- ◆ 今後の税金による公共交通の運行については、「今の事業規模を維持すべき」が 29.2%でもっとも多い。「支出を増やして充実させるべき」が 20.4%で、「支出を減らして縮小するべき」の 16.7%よりも高い割合となっている。一方、33.6%が「わからない」と回答している。
- ◆ 今の路線バスで「充実する必要がある」という回答がもっとも多かった目的は、「総合病院への通院」の移動である。
- ◆ 税金を使って対応することが妥当だと思う目的では、「高齢者の通院・買物」が 81.1%、「高校等への通学」が 71.1%である。税金を使っての交通不便者の対応への理解が充分あると言える。
- ◆ 公共交通維持のための市民の協力については、「労力による協力」が 34.1%でもっとも多い。一方、「行政がすべきで市民が協力することはない」も 31.0%と、同程度の回答がある。

## 《5》公共交通維持のためにあなたができること（複数回答）



- ◆ 公共交通維持のためにあなたができることについては、「まかなえる部分は公共交通を利用する」が 1,552 人でもっとも多く、次いで、「地域でバスの運行を支援する活動を行う」が 816 人となっている。
- ◆ 「協力する必要を感じない」は 317 人である。